

米沢古文書研究会双書

解説
岩瀬小右衛門覚書

山王堂初雄

高橋育子

凡例

1 本書は米沢市立図書館所蔵林泉文庫中の「岩瀬小右衛門覚書」の解説です。「覚書」は米沢図書館デジタルライブラリーに含まれており、インターネットで米沢図書館ウェブサイトにから閲覧が可能です。

2 この覚書は、寛文四年に屋代郷（現高島町）が米沢藩領（私領）から幕府領（御領いわゆる天領）になり、さらに米沢藩預地（あずけち、あずかりち、預所）となつた際の経緯、統治の状況、また元禄になつて預地から幕府直轄領となつた頃の記録で、2分冊になつており本書では「その1」「その2」としています。

3 筆者の岩瀬小右衛門の岩瀬家は、米沢藩で絵図面を多数作成している家柄ですが、本件当時は絵図作成に加えて屋代郷預地の代官を命じられていました。

4 覚書「その1」の最後に「右岩瀬小右衛門覚書長尾景邦謄写 上杉家編修所 伊佐早謙」とあり、図書館蔵のものは写しですが、原本の所在は不明です。

5 解説は、米沢古文書研究会の山王堂初雄、高橋育子が行いました。

6 解説中の（1）などの数字は図書館所蔵文書のページ数です。各項目の先頭にある（ ）書きは目次作成のために編集者がつけたものです。

目 次

(寛文四年六月上杉綱勝急逝，末御養子のこと)	3
(貞享元年判物)	4
(寛文四年預所になる内証のこと)	6
(御領の所払証文・上納金，江戸番割)	9
(岩瀬小右衛門が絵図につき江戸登り)	21
(小右衛門預所の継続願書差出のこと)	23
(新番所のこと)	25
(御領所境の本口番所あてがいのこと)	27
(預所新番所のあてがい)	28
(先規の口留番所のこと)	28
(口留番所番人の夫代のこと)	30
(高島役屋に詰める人足のこと)	30
(元禄四年米沢領検地の掟書，伺いと返答)	31
(元禄二年屋代郷幕府直轄となる一卷)	45
(屋代郷が預所となる様子の覚書)	47
(元禄二年糠野目へ高島より家来引取の一卷)	50
(屋代郷永引を新田分で差引三万石の高のこと)	52
[その1 終わり]	55
(元禄二年幕府直轄となるにつき勘定所より申し付け)	59
(預所で仕置欠所の家財などのこと)	61
(諸運上・拝借金などのこと)	62
(高梨利右衛門の欠所上納のこと)	63
(貞享四年・元禄二年の年貢浮役上納のこと)	64
(万治三年頃勘定役人・金奉行同心ら氏名)	66

(元禄二年六月二五日から七月一七日まで代官小林儀助交渉経緯)

	68
(先規定免四ツ八分の経緯, 年貢地など様々)	74
(小物成・高夫銭など様々)	79
(御領と私領の諸物流通のこと)	82
(蠟燭・穀物などの手荷物通行のこと)	85
(桶・魚鳥などの通行のこと)	86
(新升の出目, 閏月の入木足前のこと)	86
(元禄二年十一月柘植手代鹿沼・竹嶋へ留物につき申遣し)	89
(延宝七年より元禄元年まで一作引帳)	90
(米沢御領御城米江戸廻付について覚書)	91
(江戸に板谷廻りの駄賃)	91
(江戸に二井宿廻りの道程)	92
(江戸に最上川下り酒田まで道のり)	93
(元禄七年西村久左衛門請負の舟運入用)	94
(酒田から東廻り運賃)	95
(酒田から西廻り運賃)	95
(李平・庭坂・笹木野での御城米取扱)	96
(西村久左衛門の口米, 負担のこと)	97
(元禄二年七月両替レートなど平岡へ小右衛門相談のこと)	98
(寛文六年屋代郷勘定目録)	100
(元禄二年屋代郷勘定目録)	107
(延宝四年所払い一卷)	114
(二井宿境上覧の道筋)	118
(貞享三年閏三月二井宿村火災)	119

(貞享三年年貢米，夫食御借米)	124
(貞享四年御領馬売役錢)	126
(貞享四年御領山年貢)	126
(貞享五年御領雜駄売買役錢)	128
(貞享五年御領せり駒代)	129
(貞享五年御領年貢米，夫食借米)	130
(年貢米のうち百姓作米になるべき借し)	132
(諸色の当たりつけ)	132
(せり駒の次第)	134
(貞享四年夫食借米元利払い代など)	135
(貞享四年永納支払)	136
(貞享四年夫食借米元利払い)	136
(貞享四年年貢所払代金支払い)	137
(御領壺歩判・炭吹銀請け取り)	138
(貞享五年借金取立納め，永納負方金，夫食元利など上納)	139
(田地永代売買停止，質の定めなど)	142
(知行割りの法)	145
(上方知行割りのこと)	147
(運賃の定め)	147
(駄賃の定め)	148
(口米のこと)	149
(関東石代)	149
(関所手形に記載すべきこと)	150
(順見衆への対応のこと)	152
(会津御料所の道程など)	154

(八丁目通り村高の覚)	155
(切支丹など)	156
(免許百姓)	158
(城米のうち得代、板倉家借り米)	158
(延宝四年宗門改め人数)	160
(式日・立合など)	160
(新升のこと)	161
(京枅のこと)	163
(酒造のこと)	164
(風雨損亡について新古升)	165
(六斗百・入木足前など)	166
(元禄年中家老尋ねについて小右衛門書き上げ)	167

解説
岩瀬小右衛門覚書

「その1」

(1)

岩瀬小衛門覚書 完

(2)

目録

一寛文四年六月五日 綱憲公御継目之事

一貞享元年九月 御判物之事

一寛文四年屋代郷御預之事 是八元禄二年御料所御上ケ被成候節御尋之趣之事

一同五年方宝永四年迄小右衛門江戸登且割合之事

一元禄三年御内証御願之事

一御料所境新番所并御預り前方御預中伊達信夫境御番所之事

一高島御役屋へ諸人足之事

一元禄四年羽州米沢御領御檢地御沙汰二付右御檢地御掟書

(3)

一元祿二年屋代郷御料上ヶ候一卷

一御領所被指上付御家来御引取被遊候御伺之事

一御料所立歸り新田一卷御伺之御証文

岩瀬小右衛門覚書

(寛文四年六月上杉綱勝急逝、末御養子のこと)

寛文四年六月五日御繼目被 仰渡時

公儀御日帳被認置由 但公儀御日記方江手寄写申候

一上杉播磨守遺領三拾万石内於米沢城辺拾五万石、養子三郎二歳二被下之、吉良上野介嫡子、播磨守二八甥也

末期之養子雖不取立候、兼而保科肥後守江相達置、此事肥後守及 上聞間、如此被 仰付、因茲吉良若狭守・同上野介・畠山下総守并播磨守家来中條越前・千坂兵部・安田兵庫・沢根伊右衛門今朝雅柴頭宅へ召寄之、

(4)

伝 上意之趣、豊後守・美濃守・大和守同有其席

ル

(貞享元年判物)

貞享元甲子年十一月十三日於 御城御判物御頂戴ノ写

出羽国置賜郡ノ内式百式拾六ヶ村高拾五万石、目錄別紙在、事宛行之全可領知之状如件

貞享元年九月廿一日 御居判

米沢侍従とのへ

同十六日牧野因幡守様江町田作左衛門被 召寄、御判物添目錄被相渡写

目錄

出羽国

置賜郡ノ内 式百式拾六ヶ村

右八銘々村付有

高合拾五万石

外六千九百九拾六石六斗七升三合八依為分限帳外高二籠也

右今度被指上郡村之帳面相改及 上聞所被成下 御判也、此儀兩人奉行被 仰付執達、
如件

貞享元年九月廿一日 本多淡路守忠高判

(5)

牧野因幡守富成判

上杉彈正大弼殿

高合拾五万六千九百九拾六石六斗七升三合

置賜郡ノ内貳百貳十六ヶ村

貞享元甲子年

五月十一日

御名印

土屋相模守殿

本多淡路守殿

右置賜郡貳百貳拾六ヶ村之内 高壺万石打出、寛永十四年洪水川欠過分罷出候付て檢
地仕考ノ上如此

打出之分 但四ツ四分八厘五毛ニして

一寛文四年御改已後改発同郡ノ内式百式十六ヶ村之内七百八十六石壹斗式升
新田 但式ツ四分成ニして

合老万七百八十六石壹斗式升

都合拾六万七千七百八拾式石七斗九升三合

但絵図高二千九百十三石六斗四升二合已上ニ相見ル

右八貞享式年三月廿三日ニ江戸ニ而写之、但町田作左衛門手前ヨリ

(6)

御料所御差上之御評判之節差上候御答之留也

(寛文四年預所なる内証のこと)

寛文四年御預御用御内証御手入小右衛門相務ニ付而御尋御座候ニ差上

覚

寛文四年福寫拾式万石、米沢三万石都合十五万石被召上候砌、三万石御預り被成候
様子ハ、米沢ニ而五千人余ノ御家来之内何れを何れをと分テ可被召放様も無御座、皆
以御譜代之者下々迄重類多ク、縦御暇被下候而も立除可申様無御座候故、少分之御恩

給二而被指置候、依之三万石御年貢米、所二被差置、以代金御上納被遊候へハ御家来
ハ不及申百姓已下迄廿二罷成候、且又村々入込境目之訳も無御座諸事紛申儀共多ク御
座候付、御仕置難被成候段、若狭守様・下総守様・宮内様御内談二而、肥後守様へ御
相談被遊候処二、尤之儀候間被 仰置、可然と御挨拶二付、則北條安房守様を以御願
被仰置御預り二罷成候、以上

貞享五年此改元二て元禄元年也

辰三月

岩瀬小右衛門

(付札)

寛四御預被成候根元并所払之おこり

上付け札

元禄二年二御預所上り候時分ノ留也

米沢御家老衆方御趣ノ内二 但本書有

御状相達致拜見候、先以佐野殿御挨拶被申越候処、委曲申入候へハ兵部殿へも被申

達候由、其節御留守と申中々難道行

(7)

段被申二付、何角被致延引候、其後者御役方へも御取上之御沙汰無御座候故、貴殿不被承届候、勿論貴殿方も序無之故不被申出相過被申候所二、長手村火事二付御老中へ被仰達、尤上州様江町田作左衛門参候所、諸家御預地上り候由、作左衛門二被仰聞、従公儀御断無之内二御參勤ノ上早々被仰達被差上可然と被仰聞二付而、作左衛門罷歸、兵部殿へ咄申候故貴殿二も右ノ趣被申聞候由、依之三万石被遊御預候砌之覺書相調差出候様二と兵部殿被申二付而、貴殿二留置候書付之内方調被出、右之書付此方へも参見届申候

右之通ノ御状二候へハ二ヶ条共二差出候留と引合也

寛四二坂田五左衛門同道、但御預二罷成候以後也、右郷帳差上候得ハ岡田豊前守様・妻木彦右衛門様御覧候而、四ツ八步定免二候へハ、蔵米二而も地方二而も勝手次第二被遂御勘定可然と被成御意候、外ノ御預りとハ各別二候へハ、蔵米二而も不苦候由、被仰聞候へ共、不作之時分訴詔難申上候付而、高物成書立差上申事

右之訳 御一門様中御たつねに付而、俄に兵部殿迄差出之扣、此御尋ハ貞享五年三

月中也

(8)

(御領の所払証文・上納金、江戸番割)

御領所払御証文秋中上納金兩度宛江戸番割

三石式斗替

寛四 八月九日立

九月三日下 志賀善左衛門・蓬田八兵衛

但此節ハ小右衛門義ハ上方方江戸江罷下候処、屋代郷御預ケ之御用懸被 仰付御

願相叶候上罷下候

三石壺斗替

同五年 二月廿八日立

三月廿五日下 小山弥兵衛

但寛文四年御預一卷二付而江戸二逗留同年九月中罷下、辰ノ中勘定登但九月廿日

立

同年 十二月七日立 岩瀬小右衛門

式石式斗五升四合三夕替

同六年 八月二日立

九月廿一日下

志賀善左衛門・蓬田兵右衛門

三石壺斗替

同七年 八月二日立

九月十七日下

右同人 蓬田八兵衛

壺石七斗替

同八年 八月二日立

九月十五日下

小倉半兵衛 岩瀬小右衛門

三万石取延訴訟

同年 十一月五日立

十二月二日下

蓬田兵右衛門

小物成聞届

同九年 三月廿三日立

四月十二日下

蓬田八兵衛

壹石八斗五升替

同年 八月十九日立

十月朔日下 小倉半兵衛 遠藤孫兵衛

所拈御証文下直ヲ申分ケ此時新升書付坂田五左衛門同道請取

同十年 四月十五日立

五月十五日下 岩瀬小右衛門

右之通相勤候付而金子五兩被下置候

金納

同年 八月五日立

九月十二日下 小倉半兵衛・蓬田兵右衛門

三石替

同十一年 二月廿一日立

三月廿二日下 遠藤孫兵衛

(9)

金納

同年 八月二日立

九月十七日下 国分源左衛門 小山弥兵衛

式石八斗五升替

同十二年 二月廿三日立

五月四日下 佐藤善左衛門

金納

同年 八月二日立

九月九日下 国分源左衛門 蓬田八兵衛

遠藤間兵衛

式石八斗替此時文殊八幡社領相叶

延元 三月二日立

六月十六日下 岩瀬小右衛門

金納

同年 八月三日立

九月十一日下 服部伊右衛門 遠藤間兵衛

壹石七斗壹升六合六夕替

同二年 二月廿八日立

三月廿九日下

蓬田兵右衛門

金納

同年 八月二日立

九月廿七日立

服部伊右衛門 遠藤孫兵衛

檢地引方分届二

同年 十一月十五日立

十二月十二日下

佐藤善左衛門

同三年 二月廿九日立

三月廿七日下

蓬田八兵衛

金納

同年 八月二日立

九月廿一日下

服部伊右衛門 岩瀬小右衛門

片倉次右衛門

此節所抔難相成趣御勘定所二て御挨拶有之事

同四年 三月九日立

五月廿一日下 遠藤間兵衛

江戸廻シ被 仰付御訴訟二罷登罷下金子十両拝領

同年 四月十六日立

五月廿七日下 岩瀬小右衛門

金納

同年 八月二日立

九月十八日下 服部伊右衛門 片倉次右衛門

所抔二付御召状二而登ル所抔相叶并西蓮寺事勤之御小袖頂戴

同五年 同四年十二月廿三日立

三月十五日下 岩瀬小右衛門

金納

同年 八月二日立

九月廿日下 服部伊右衛門 蓬田兵右衛門

御檢地

同年

十月十三日立

十一月四日下

遠藤作兵衛

(10)

式石五斗四升六合五夕替

同六年

二月廿三日立

三月廿三日下

蓬田八兵衛

同年

八月三日立

九月十九日下

服部伊右衛門

遠藤作兵衛

三石壹斗五合壹夕替

同七年

二月廿三日立

三月廿七日下

遠藤間兵衛

同年

八月二日立

九月十五日下

服部伊右衛門

片倉次右衛門

式石六斗八升替

同八年 二月廿七日立

四月六日下 岩瀬小右衛門 平太夫書事

金納

同年 八月十五日立

九月十七日下 服部伊右衛門 蓬田兵右衛門

新宿一卷共二

来通シ 式石壺斗替

天元年 二月九日立

六月十七日下 蓬田八兵衛

(新宿一卷御欠所ノ伺(力))

同年 七月十七日立

十月十六日下 右同人

高田江御金納窺ニ被遣候ヘハ桜井藤兵衛殿無用之由にて歸ル

同年 七月廿八日立

八月十五日下 片倉次右衛門

同年 八月廿五日立

服部伊右衛門 遠藤間兵衛

同式年 二月廿日立

三月廿五日下 遠藤作兵衛

同年 八月十三日立

十月廿一日下 服部伊右衛門 片倉次右衛門

小山弥兵衛

式石五斗替

同三年 二月廿二日立

四月七日下午 岩瀬小右衛門

御儉約付而役料ノ内廿俵宛天式分方

小物成扶持米

同年 六月廿三日立

七月十四日下午 蓬田兵右衛門

此時分方式兩宛ノ御合力

同年 八月二日立

九月廿九日下 服部伊右衛門 小山弥兵衛

此時方服部へ五十表ノ替四両御合力被下

(11)

金山事

同年 一二月十日立

天四正月一日二下 遠藤作兵衛

三石六斗替

同四年 貞享元 二月廿三日立

三月廿日下 遠藤間兵衛

金納

同年 八月九日立

十月朔日下 服部伊右衛門 片倉次右衛門

所払并樋橋入用目録山工事言上

貞式年 二月八日立

四月朔日下

岩瀬小右衛門

金納

同年 八月廿一日立

服部伊右衛門 小山弥兵衛

十月十五日下

舟田善右衛門

同年兩度登

付札

此所工事帳詮議致候所年月引違候付而認直し申事 岩瀬小右衛門

右八元年二茂庭山工事出来付而、御家老中江戶江言上被成候御用被 仰渡、二年

二月八日発足、十五日二上着、御前二被 召出申上、夫右御用相勤、三月廿五日二

江戸発足、四月朔日二下着、御下国被遊候上、又々九月朔日二江戸へ発足、但六日道

中にて上着と 上意被 仰出候付、同六日二上着、御用相勤、十月四日二江戸発足、

同九日二下着、且又右御用二付福島御代官柘植殿へ兩度為御使者被遣

四石式斗替

同三年 三月五日立

閏三月三日下

遠藤作兵衛

同年 五月廿四日立 同人

右八新宿村百生家焼失拝借金水吞分共二拝借申立二罷登

寅ノ四郷帳納ル

同四年 八月中登

十月晦日二郷帳

岩瀬小右衛門

納十一月中下

卯ノ郷帳納ル 但二月廿三日立、晦日二上着、此節別二御用也

元禄元 八月登

十一月下

同人

(12)

辰ノ郷帳納ル

同式年 二月中仕切御勘

室高六郎右衛門・岩瀬小右衛門

定勤ル小林殿へ

小沢名兵衛

渡ス

(岩瀬小右衛門が絵図につき江戸登り)

上付札

屋代郷御預中小右衛門用にて江戸登十五度此末八御絵図書

御国絵図二付而

同十年 二月十五日立廿日二

江戸着

岩瀬小右衛門

十一年二月五日江戸

立十二日下着

同断

同十一年 三月廿一日立廿七日

江戸着

同人

十二年正月元日

江戸立十日下着

御絵図上納八十三年

三月四日也

同十二年 四月四日立十一日江

戸着

同人

十三年三月十二日立

十九日下着

突合会形絵図

同十四年 八月九日登

十五年七月廿九日

同人

下

変地帳差上ル

同十五年 後八月登

同人

十一月九日下

名助書事二

御普請二付而

宝元 二月三日立

同人

同十七年 五月二日下

名助書事

御領所御願書二付而

同式年 四月廿日立

同人

後四月十九日下

嘉門書事

同断

同四年 三月廿七日立

同人

嘉門召連

御絵図登

八度内四年二八半途歸

(小右衛門預所の継続願書差出のこと)

下付札

宝永二年四月十七日春日与左衛門殿方御呼出、御用之儀候間、今日日中江戸へ出立可仕候、御用之儀ハ於江戸可被 仰付候、其上御発駕之御日限も可被 仰出候間、早々出立可仕旨被 仰渡候間、明後日出立可仕由御請仕候、依之宰配頭弥五左衛門殿へも参事申請候、且又組頭を以申立候ハ、歳寄申付而嫡子嘉門同道仕度存候段、弥五左衛門殿へ椎野殿を以申立候へハ御役所へ御申立、願相叶直々役所方申来弥五左衛門殿

へ相届候

(13)

嘉門江も御賄六拾匁被下置由申来候由とも二相届候

一我等御擬ハ前々之通五両、御合力金五両ハ御借金、七両ハかこ料被下、上下三人之御賄登り下りたちん一駄分、手廻ハ鍵挟箱御あしかるかち者一人自分者ノかち者一人、小者并嘉門同道、同十九日出立仕候

一廻国御用付而三度四国迄、但寛文元方同四年迄

一福島土湯通り会津江ノ新道御用二付而忝人登、御用懸千坂安芸殿・黒川右衛門殿

一明暦三酉年江戸大火事付而金銀相勤ル、但正月廿一日立、出火正月十七十八

江戸登二十七度

口上之覚 但元禄三年中之御願也

一拙者儀延宝三年十一月廿三日從四位下侍從被 仰付候、先例之通少将拜任之儀奉願候

一拙者領分十五万石之外、旧領三万石御預所二而御代官支配之地御座候、私領之仕置等之為にも罷成候間、先年之通拙者之御預地二被 仰付被下置様奉願候

右兩条不苦儀御座候ハ、可然様頼存候、以上

午三月 日

右御願御内証御老中大久保佐渡守様・柳沢松平美濃守様江御覺書を以被 仰入候、
右付而御手寄二者萩原近江守様

(14)

(新番所のこと)

新番所之覺

一五ヶ所

花沢口

右八山上通町ノ南二壺ヶ所、鉄砲町ノ東二壺ヶ所、御弓町二壺ヶ所、花沢口二壺ヶ所、久保町二壺ヶ所

一壺ヶ所

外内村

右八新田江之道

一式ヶ所

中田村

右八北南二壺ヶ所宛、新田浅川へノ道

一式ヶ所

窪田村

右八南東二壺ヶ所宛、但入生田舟橋道

一壺ヶ所

糠野目村

右八舟橋一本柳へノ道

一壺ヶ所

福沢村

一同

右之内山崎

一壺ヶ所

津久茂村

右八深沼村へノ道

一壺ヶ所

大橋村

右八一本柳竹森へノ道

一壺ヶ所

俎柳村

(15)

右同断

一壺ヶ所

柵塚村

右八時沢へノ道

一壺ヶ所

赤湯村卜川樋

新田ノ間二

右時沢海道

一 壺ヶ所

川樋村

右同断

一 式ヶ所

小岩沢村

右ハ小岩沢村ニ壺ヶ所、時沢境ニ壺ヶ所

但時沢ハ新宿高島海道

ハ式拾壺ヶ所

(御領所境の本口番所あてがいのこと)

右御領所境本口之御擬

一 百匁

薪代

一 壺人半ふち夫扶持

一 式両

御借夫代

一 壺分 右支着代

一 壺表

荏油

一 紙筆墨共ニ

一 百匁

加番人薪代外壺石番人ノ加恩居宅加番所共ニ

公儀普請ニ被成下申候

右ハ糠野目口ノ格二候、花沢口ハ両人番人被差置候付而、加番両人ハ薪代無之候

一右代積りニ \times 七兩位ニ当ル

一右御領所通物吟味人被遣候節八 \times 一人ニ \times 升式升ツ、

(16)

御賄被下夫銀七分ツ、被下之、十五人程今年出

(預所新番所のあてがい)

御預所新番所

一七拾匁 薪代 一 \times 石 御加恩

一油紙筆墨も相渡ル 一家破損被成下之

一右八 \times ケ所ノ御擬二候

右式拾 \times 人 但廿一ヶ所

(先規の口留番所のこと)

先規口留番所之覚

二軒番

一新宿口 柴參百六拾荷

仙台へ

但新宿村計ニテ勤ル

一同 田沢口 銀百匁 同

一同 すね沢口 同断

但高島御城加番所卜有之不分明

一同 蛭沢口 同断 同

一同 山崎口 同断 最上

ル五ヶ所新宿分 但薪御代事也割

金原之内 湯在家共

一伊才毛口 銀百匁 仙台

同村

一新田岩屋堂口 銀百匁 右同

上和田之内二軒番

一本宮口 銀百匁 福島

同 二軒番

一伊祢子口 銀百匁 右同

時沢村之内

一時沢口 柴三百六拾荷

最上へ

時沢・亀崎・深沼・竹森・根岸・三条目此六ヶ村方出入

一高島加番所 但町末二有之城付同心方勤ル穀留之分迄

(17)

銀々老貫式百五拾六匁 但半分宛御領御私領出シ、根元ハ御領計二候

已上拾壺ヶ所

(口留番所番人の夫代のこと)

右番人夫代壺人二付百匁宛、此内五拾匁ハ御領、五拾匁ハ御私領方出之勤ル、但三百六拾荷代ニ々百八匁本宮口ハ外二百四拾匁村々方兩人取申候

々

(高島役屋に詰める人足のこと)

一高島御役屋江年中三万石分相詰人足覚

一千五百人

人足

此内

一 貳百人 入木二而済 一百人 繩二而済
一 七拾人 すくろ二而済 一百三拾人 人足二而度々二詰申候
右八作事屋割

(元禄四年米沢領檢地の掟書、伺いと返答)

覚

一 今度羽州米沢領村々檢地入候付而、檢地惣奉行并下役人竿取等迄堅誓詞可仕、田畠位付正路二繩目迄無延縮様二随分入念、且又百姓之費無之作毛不踏荒様二可申付事
一 檢地案内之者、其村之名主・年寄百姓又ハ小百姓之内ニても吟味之上五七人も申付之、少ノ所ニても地面引落間敷候、并繩手之者召仕等迄も若非儀有之ハ、早速惣奉行へ可訴之旨、案内ノ者誓詞前書ニ可為書入事
一 間竿之儀六尺一間ノ積、式間竿たりといへとも壺間に壺分宛加へ来り候条、長壺丈式尺式分竿を以可打、勿論壺反歩ハ三百坪

(18)

御返答六尺壺分竿ノ内壺分八除、六尺ニテ算用可仕上

一此度検地之儀半間迄ニテ尺寸打へからず、雖然田畠豎横之広狭ニ随、或平均間等非所者尺迄八用、歩詰之勘定ニ入之、豎横ノ間数水帳ニ書付候ニハ半間迄記之、野帳ニハ見積之間相之儀致断書、案内之者并地主ニ右之旨可申渡事

右之内奉窺覚

見積之間相之儀并断書之様如何可仕候哉之事

御返答

見積間相之儀平均之時三所ニ而も四所ニ而も打候所ノ間数野帳ニ書付置へし、水帳ニハ平均ノ間計可書付之也

附歩詰ノ義四リン余ハ捨之五リン方壹歩ニ可入之事

一検地可入村へ繩手ノ者相越古検ノ町歩耕地切ニ寄立、帳面ニ記之、案内ノ者召連地所村境大通遂見分致繩初之心得ニ成候様ニ可仕事

右之内奉伺覚

耕地切ニ寄立、帳面ニ記之御座候所并致繩初ノ心得之儀いかやうの儀ニ御座候哉之事

御返答別帳ニ而済

一田畑位付之義大方上中下三段二候、此度ハ吟味之上地面取分、能所者上々田又ハ所
二方藺田麻田等有之ハ壺

(19)

段立之石盛ハ上方壺斗高二も相究、悪地有之所ハ下々田或山田・砂田・谷田段々立
之、下二而壺斗或式斗三斗も相考石盛ヲ下ケ可相究、畑之儀上々畑麻畑茶畑下々畑山
畑焼畑砂畑其外二も所ニヨリ見計段々立之石盛応地面可有了簡、屋鋪ハ古来上畑並
二候間、石盛上畑可為同事、石盛大方段間式ツ下り二候得共、土地ニヨリ二ツ下り二
限間敷候間、地面相応可有詮議、但位付之儀其村へ案内申付候百姓ニ為致誓詞候已後、
田畑共二位二不構一二付ノ位所ニヨリ一ヨリ十五六迄段々為付立、帳面取之、檢地役
人ノ見分ト引合遂吟味、上中下位付可相究事

右之内奉伺覚

位付上中下三段之儀惣而奥州代ニ可有御座様ニ奉存候、右之外奥州代共大和代共
不知石盛ハ上方壺斗高二も相究候儀者定而大和代ニ而も可有御座候哉之事

御返答別帳ニ而済

一式ツ下り之処いかやうの儀ニ御座候哉、并一ヨリ十五六迄段々為付立帳面取上様

二御代官衆へ被 仰遣可被下候、但一ヨリ十五六迄と申事ハ如何様之儀ニ御座候哉之事

御返答

二ツ下りハ式斗之事

附百姓居屋圍之儀四方ニテ壱間通可除之其外ハ竹

(20)

木ノ有無ニ不構竿可入、但四五六間迄ノ小ヤシキ又ハ新並ノ隣ヤシキ境垣一重ノ所等ハ四方壱間通不及除見計其屋敷之相応ニ可除、且又古檢之外新屋敷或地所惡敷候共居屋敷ハ其所之可為上畑、并若新規ニ屋敷願者有之ハ吟味之上右之心得を以屋敷可相渡、勿論畑ニ不致早速屋敷ニ仕立候様ニ手形可申付事

奉伺覚

小ヤシキノ儀ハ境壱間ニ不限或式尺或三尺も見計竿相除可申哉之事

御返答

屋敷除地ハ地尻ニテ見積可渡之

奉伺覚

右ヤシキニテ土地悪敷上畑並ニ難成所御座候ハ、いかやうニ可仕候哉之事

御返答

居ヤシキハ何れニ而も上畑ノ御定、此段百姓へ相断畑ニ可仕と申候ハ、可任其意、但屋敷と畑との境を立へし

一畑方検地之儀畑之廻漆桑楮茶ノ木有之而高二入来り候処ハ其分見計次第畑歩可除之、若従古来右之品高二入畑歩不引所有之者、委細書付可相伺、勿論漆桑楮茶ノ木新規ニ高入可然所ハ吟味之上可申付、但畑一面ニ右ノ植物有之者位付可為前条之通、若右之品之高二不入場所ニて畑ニ打入

(21)

候ハ、水帳ニ断書可致置事、

奉伺覚

漆桑楮茶ノ木有之而高二入来り候所ハ見計次第畑歩可除との義如何様之義ニ御座

候事

御返答

桑畑沢山有之ハ束ニ見積り歩付可仕、少分之儀ハ可除之、但検地ハ惣而入野帳

水帳ニ断書可仕候、私ニ百姓ニ古來之通証文不可取之

奉伺覚

桑漆楮茶ノ木新規ニ高二入申所ハいかやう之義ニ御座候哉、但所々ニ右之植物御座候処ハいか様ニ可仕候哉之事

御返答

惣而令檢地、目錄ニ可窺事

奉伺覚

前条之通ノ義ハ位付いかやうニ可仕之哉之事

御返答

是ハ一二付之事

一 田畑石盛位付之義隣村地続近郷ノ様子相考甲乙無之様ニ可念入山方野方ノ村ハ可有差別間其心得尤候、旱損水損場用水懸り并日請等迄相考先石盛ニも無構地面ノ相応并五ヶ年ノ取ケ平均を以取ケニ不相応ニ無之様ニ石盛位付之義能々入念ヲ吟味候趣、委細書付得下知可相究事

奉伺覚

石盛之義相定り不申候へハ、野帳ニ高を付申義罷成間敷様ニ奉存候、此段如何可仕哉之事

(22)

御返答別帳ニ而済

一 檢地之時、間敷野帳ニ記候跡於其場所間違竿ノ延縮有之ハ、入念時々致置竿又者くだ繩を以可相改、勿論相改竿取之外一切不可相交事

一 附毎日致檢地候野帳之義役人押切印判加へ百姓ニ借渡シ、若竿違書誤又ハ位付ニも相違有之歟百姓ニ相尋訴訟ノ旨有之ハ帳面ニ致附紙申出候様ニ仕、詮議之上再見訴訟尤候者可直之、勿論難立儀申出間敷候、堅可申渡置、田畑あさ名付是又無相違様ニ明細水帳ニ可記置事

一 寺社領入組ノ村檢地ノ義、地境分明之所ハ寺社領一切竿不可入、若境目不分明ニ付而竿入候ハテ不叶所ハ檢地ニ而致吟味寺社領之分出歩有之候共其通ニ而可差置事
奉伺覚

地境証文も無之不分明之処いか可仕候哉、并境田地外へ当分売渡義も是又いか
が可仕候哉、自然買済之田地ハ尤境外ニ可仕哉之事

御返答

証文無之除地寺社領ニ而も吟味仕可伺事

附御領ノ内小物成有之而他領方入念候とも反歩等不分明之所ハ致檢地水帳ニ可
書載事

奉伺覚

小物成之義何様之儀ニ御座候哉之事

(23)

奉伺覚

小物成之義何様之儀ニ御座候哉之事

御返答

小物成之儀野手山手等ノ義也

一御朱印地之外寺社領又ハ前々方除来候場所或堂宮免田畑関守渡守等ノ給田畑等之義
古水帳ノ末ニ外書ニ記有之、又ハ慥成証文矩有之委細直ニ記之御勘定所ニ可仰下知
并百姓居屋敷或立山竹木林除木之分有之ハ是又右同断之事

一御領私領寺社領田畑入組、双方百姓立合致吟味可然所者其旨相通立合之上可致、檢

地惣而入組ノ場所ハ境目為立、傍尔申分無之様ニ可仕事

右之内奉伺覚

傍尔立様之義いかやうニ可仕候哉、道筋之境目或所々ノ境目二分木ヲ立申義ニて御座候哉之事

御返答

傍尔八分木之事村境不分明之所絵図仕伺之、但檢地ノ場所ニ計百姓方分木立之附隣村江入組境目不正所有之ハ双方ノ百姓遂詮議地境糺之申分無之旨手形可取、若落着難仕所有之ハ檢地仕廻已後絵図覚書を以相窺水帳可究事

一 永荒場川欠山崩等有之所ハ見分之上可立歸場所ハ田畠ニ成候様ニ相応之位付致、高二詰詮議之上先地主又ハ其外之者成共可申付、立歸間數分ハ能々吟味之上水帳ノ

(24)

末ニ外書ニ町歩可記置事

附惣而見取場分檢地入高二可入、若高二難入場所有之ハ吟味之上水帳ノ末高外ニ町歩記之見取場と可書付置事

右之内奉伺覚

池ノ乾上り作毛仕付之所ハ見取同前ニ可然哉之事

御返答

池干上り見取場可吟味之、但見取場年々不定故御代官江申達水帳ニ断書可仕置之
一御年貢米借置候藏屋敷并今屋敷之義前々方高二入候所ハ勿論、高外ニ致置候分ハ高
入藏宇有之内ハ御年貢可除候事

奉伺覚

御藏米ニ御米なと積置申庭御座候ハ、御年貢之義いかか可仕候哉之事

御返答

藏屋敷ノ庭ハ其村ノ高二可応敷地ハ拾歩不可過之高二入取ハ可除之、藏屋敷も右
同断

一野手山手ノ場并山林有之所致検地水帳之末ニ委細可記之、雖然或大山險阻場広山ニ
テ境目分明之所ハ不可及検地、若地境一円難知検地入可然所ハ各別之事

奉伺覚

野山林之義水帳ノ奥書ニ仕尤外ニ山帳と申ハ仕立申間敷候哉之事

御返答

山帳ハ別ニ不及仕立、水帳ノ末ニ断書可仕事

(25)

附野手山手ノ場町歩此度打出有之歟又ハ野山錢等増申付可然所ハ地所相考、御代官へ相談之上増年貢可申付事

一百姓林之義年貢申付可然義候ハ、雖為少分ノ所輕キ年貢可申付事

奉伺覚

此林別而山帳仕立可差上候哉、尤かろき年貢可申付との義何様ニ可仕候哉之事

御返答

山手ハ出し、別帳ニ仕立ニ不及

一田畑ノ中ニ有之大石大木其外作毛仕付難成分ハ能々吟味之上其分可檢地除事

一池沼野原等有之而新開可成分者遂吟味、百姓相對之上為致繩請、村高二可入之、新

開難成分者水帳之末ニ外書ニ町歩可書付置事

奉伺覚

一 新開ニ難成所奥書ニ書付仕候義何様之義ニ而御座候哉之事

御返答

此所見分之上水帳ノ末ニ可書付事

附堂宮并散在野稻干場土取場或廟所古塚死馬捨場等難高二入分、反歩改之是又水帳ノ末書ニ可記置、堂宮敷地付除之、廻之地ハ高二入、可然分ハ見量可高請、古檢地ノ内ニ記置候堤并用水ノ井筋等ニ成候場所ハ致檢地、以前之通可書付置、右之類古檢地帳ニ無之分者新檢地帳ニ可書載置事

(26)

奉伺覚

堂宮庭之分除地ニ付其外檢地可仕哉之事

御返答

堂宮敷地かこい木又ハ芝ニても有之其通りハ敷地ニ可入、且又其廻リニ有之田畑其宮ニ付候と宮守百姓等方手形ヲ取可伺之、用水井筋之義御代官へ申談、古来方無之所ハ除可遣之

一片山ニ有之田畑地面悪敷以來段々可欠荒場所たりといふとも有反歩之通可致檢地事
一惣而田畑廻リニ堀田有之ハ、遂詮議本歩ノ内へ致入歩ニ水帳ニ可記之事
一田畑ノ中ニ道附替度旨百姓願之所有之ハ、見分吟味之上障無之ニおいてハ可申付事

一家抱地水帳二名記之義地主之遂詮議、誰家抱候と肩書二可記之、次小作百姓若水帳二名記之儀有之ハ是又地主二詮議之上手形取之分附ノ肩書可致置事

一檢地之役人村移り惣奉行江得差図次ノ村へ可參、勘定仕候節役人之外其場へ出入一切可為停止事

一新檢水帳ノ肩書二古檢不及記候、別紙帳面二新古高反別増減ノ訳并引方起返り新田畑改等惣寄二記可差出事

一田ヲ畑ニ致置、田年貢出し來此度畑ニ繩請仕度旨願候ハ、

(27)

一遂吟味手形取之、畑ニ可申付、并新堀新堤道等致可然場有之候而此度敷地除置度旨願候ハ、能々遂吟味御代官江相談之上右之通申付可然と候ハ、可得下知事

奉伺覚

奥ふかく住居仕候屋敷たり共、道代引申間候哉、但百姓二三人共罷在候所ハいか可仕候哉之事

御返答

此道之事屋敷ノ内之分者無構、外ハ可除之事

一 檢地仕廻候以後繩手之者下之等迄対百姓非議成事致候者も有之候哉と惣奉行之者其
村々百姓へ能々可致詮議事

一 水帳相極候者檢地奉行下役竿取案内之者迄奥書致判形、御代官江相達、村々名主方
へ右水帳渡置之、本書之通写帳認御代官江も可相渡事

右之條々得其意存寄之義於有之者可得下知候、已上

元禄四年未二月

右之外御附紙

一 池二も檢地仕水帳之末に可書出、但不及委細

一 新古之檢別帳不及伺書之内肩書二計可仕事

一 竿初二成候ハ、初中後三度御注進可然事

一 竿初者小高ノ村ヨリ可打初事

一 百姓之内不応分限野山持之者之義吟味何程ニても古来

(28)

ノ持分之通ニ仕置年貢可取之

一 寛永七年未ノ年迄ハ古作同申年々新地也

一 檢地ノ年相幾年ニも心次第増減共ニ不及伺事

一 惣檢地ノ事ハ可取吟味糶場等檢地ニ構無之儀ハ可為其分事

一 私ニ伺候事ハ別帳ニ記可置事

已上

(元禄二年屋代郷幕府直轄となる一卷)

元禄二年屋代郷御料上り候一卷 岩瀬留

一 御台領被差上候一卷ハ元禄元之春頃方於江戸御沙汰御座候、依之御聞合も御座候へ共よそ不相知候所ニ福島辺ニも沙汰御座候由、渡部十右衛門米沢御役方へ御書面申遣候、私共取^ル有之事ニも無之候所ニ松平出羽守殿、保科肥後守殿御預り所も上り候へハ、風説共難決殊肥後守殿御事去年中京都へ御登候方以來殊之外 公儀前御不首尾ニて候由、乍去左様之儀ニて御預ケ所被差上候と申儀ニも差而無之段ニ候事
一 酒井伝兵衛殿へ書状密々ニ差遣承合可申由、此方御

(29)

家老権四郎殿、右近殿、彦左衛門殿被仰付候故、十月五日、江戸江書状遣候

但上包ハ棚橋と遣、尤右之趣兵部殿ニも委細書状ニて申上ル、右状共此方御家老
中方御飛脚ニて申遣候事

一兵部殿方右御返書ニ酒井殿へ之書状ニての聞合いかかニ候付御差扣可被成思召ニ
付、右書状も伝兵衛殿へ不被遣候由、然上者私とかく罷登御勘定方直談無之ハ相知
間敷候、乍去其内随分無油断御聞立可被成候由、同十三日ノ日付ニ而申来

但右御返書ノ御書面有外御用も有

一二月廿三日私米沢出立、同晦日江戸着、三月朔日方所々相勤承合、尤御勘定所江も
罷出御手寄ノ肥後守殿御預ケ所上り候儀承合候所、早々佐野長門守殿御密談被仰聞、
飛脚ニて此言上書ハ米沢へ差遣候

右言上ノ儀兵部殿へも御内見ニ入、則米沢御家老衆へ印符ニ付上ル、且又つまり
御世上並無御抛方ニ候へ共、米沢御領所之儀ハ根元別段ニ候へハ、左様も無之様
ニ御手入第一可仕旨被仰聞、此儀ハ御上之御含旁米沢江戸共ニ御隱密也、其外服
部へ之用并同役之用ノ趣共米沢御三殿へ直々以書面申上ル、但四日六日兩度ニ申
上候事

一右御返書五日飛脚にて去ル十四日日付ニメ御三殿方委細申来

右御返答御書面有

一長手村火事一卷御老中江御届一卷二付、吉良上州様江罷上候へハ諸家御預り地上り候段、御直々被仰聞兎角公儀方御断無之内ニ御参勤ノ上、早々被仰達被差上可然と被仰聞、則兵部殿へ卒度申上候、尤同日作左衛門ニも被仰聞候由、作左衛門私へ密談申聞候付而、兩人共ニ兵部殿へ今晚罷出申上候事

廿一日

一右一卷付而兵部殿へ被召寄御閑談有、其上往古御預り被遊候子細御尋有之付而、口上ニ而大概申上候

廿三日

一御一門様方被為入、兵部殿江御密談有之上、往古御預りノ様子御尋付而可申上候由二付、右子細書付ニメ差出候へと兵部殿を以被仰付候付而、兵部殿へ昨日御物語仕候趣ヲ覚書ニメ差出候留

(屋代郷が預所となる様子の覚書)

覚

寛文四年福島十式万石、米沢三万石、都合拾五万石被召上候砌、三万石御預り被成候御様子ハ五千人余之御家来ノ内何レヲ何レヲと分テ可被召放様も無御座皆以

(31)

御譜代之者下々迄重類多ク縦御暇被下候而も立除可申様無御座候故、少分之御恩給二而被指置候、依之三万石御年貢米所二被差置、以代金御上納被遊候へハ、御家来ハ不及申、百姓已下迄窶二罷成候、且又村々入込境目之訳も無御座、諸事紛申儀共多ク御座候付、御仕置難被成候段、若狭守様、下総守様、宮内様御内談二而肥後守様へ御相談被遊候処、尤之儀候間被 仰立可然と御挨拶二付而則北條安房守様を以御頼被仰立御預り二罷成候、以上

元禄元辰

三月廿二日 岩瀬小右衛門

一寛四御預り二相成候以後、坂田五左衛門同道古郷帳御勘定所江差上候へハ、岡田豊前守様、妻木彦右衛門様御覽候而四ツ八步定免二候へハ蔵米二而も地方二而も勝手次第二被遂御勘定可然と被成御達候、外ノ御預りとハ各別候へハ蔵米二ても不苦候由、被仰聞候へ共、村々不作ノ時分訴訟申上候、付而高物成書立差上申事、右之外

御老中様、御役人様中へ御内証之儀ハ兵部殿へ昨日口上ニ而申上候付而書上ニ不及候段、被仰聞候付、相略候事

一右御一門様方ニ而御相談被遊候上、御老中様方御役人様中へ御手入被仰付相勤、尤被遊御参府御礼相濟於江

(32)

戸六月中迄相勤七月朔日ニ江戸発足罷下、又同八月二日米沢発足郷帳上納仕、此節も十一月中迄逗留被仰付、右一卷御用相勤候事

一元二ノ正月大久保加賀守様方御内談有之、御料所被差上御頼被差出、同六月中小林儀助殿江御支配ニ罷成候事

但御内証を以被差上候儀、少成共公儀ニ而何ぞ相替御儀ハ無之御含ニ付而被差上、可然由ニ御座候依之被仰立之上御預り所上り申候事

此御差紙小右衛門所ニ留置

一二月中方段々御勘定所方御差函共有之、室高、岩瀬江御差紙来

一儀助殿へ御見廻并御支配被仰付候御祝儀持候儀別帳ニ有

一御同人様へ御上方御使者別帳ニ有

一 米沢同役中方も御祝儀為登申方ニ於江戸私相量申候別帳ニ有

右品々何も御不納也、但御祝儀積ハ酒井左衛門尉殿御預り所上り候付而、右御方

様方ノ御附届承合、其上此方様ハ御分限過申付而少々御附益シ御祝儀被遣候事

一元二九月中迄ニ御料所引渡濟候事

(33)

(元禄二年糠野目へ高島より家来引取の一巻)

一元禄二年御領所被指上付糠野目江高島方御家来御引取被遊候一卷御伺之事

一元禄二年五月二日大久保加賀守殿江今朝大平源五左衛門・町田作左衛門被遣候御伺

之御書付并御口上之趣

今度御領地指上候付、任御内意申度儀御座候間、家来差越申候、委細者致書付指

越申候間、宜御指図可被下候由被仰遣

御書付ノ留

一 今度指上申候御領之内高畑と申所二前々方かきあけ有之候ニ家来ノ者指置来候、右
之家来引取

(34)

私領之内勝手能在郷二屋敷為取致屋作指置申度存候事

一 唯今迄御領二指置申候所々口留番人已後ハ私へ引取申指置申度存候事

右之御口上御書付源五左衛門致持參候御取次近藤吉左衛門へ御口上申通并御伺ノ御書付相渡、尤源五左衛門・吉左衛門へ申様ハ、此書付之通高島二指置候家来私領へ引取勝手よき在郷二指置申度子細ハ先以境しまりノため儲亦前々高島二家来指置候ハ所々二口留番人指置申候、此もの共何そ城下へ用事申遣候二ハ高島と申所迄申遣之夫方城下二申越候、其格二高島ノ家来共私領ノ勝手よき在郷二屋敷為取致家作指置申度と奉伺義二候と源五左衛門才覚仕候へハ吉左衛門申様ハ、御城下方高島迄道のりハ何ほと有之候哉と申候付、作左衛門申様二ハ四里ほと御座候と致挨拶候、さて又侍分ノ衆ハ何人ほと御座候と尋申二付侍分ノ者ハ五六人程、外ハ同心分足輕等何もかろきもの共計指置候段、源五左衛門致才覚候へハ委細承届候と申候而吉左衛門引込申候

一 無程吉左衛門罷出御返答被申趣ハ委細致承知候

(35)

御領二御家来衆被指置わけ二ハ無御座候間御引取可被成候と被申候、さて又口留番

人之儀ハ御代官へ御相談可然と被申候由申付而、源五左衛門申様ハ最前申上候通御領ニ指置候家来尤引取申覚悟ニハ有之候へ共、勝手よき在郷ニ屋敷渡家作等申付度存候儀被仰上被下候哉と申候様而、作左衛門才覚申様ニハ高島ノ通ニかき上等仕儀ニてハ無御座候、平地ニ屋敷ヲ渡家作申付迄ノ事ニて御座候

此段伺申儀ニてと申候へハ、吉左衛門申様ハ右之段加賀守へ申聞候へハ御私領之内ニて御座候へハ、愈御勝手次第と被申候と申付而罷歸、御料所立歸り新田一卷御伺之上御勘定所方御附紙之御証文也

御勘定奉行小菅遠江守殿・松平孫太夫殿同御吟味方諸星傳右衛門殿・萩原彦次郎殿押切印判有之御証文也

(屋代郷永引を新田分で差引三万石の高のこと)

覚

一 高三万石

出羽国屋代郷米沢領

此取壹万四千四百石

四ツ八步定納

内 式百五拾九石四斗二升五合八夕二才 年々永川成引

但新田ニ而取立也

(36)

六百四拾三石八斗五升七合五夕五才 一種代二取立ル分

此永百七貫三百九文五分九厘貳毛 但永壹貫文付而

六石替ノ積リ如此

残取壹万三千四百九拾六石七斗壹升六合六夕三才

一高貳千百壹石五斗貳升五合七才 同所新田

此取五百四石三斗六升六合四夕貳才 貳ツ四歩

内貳百五拾九石四斗貳升五合八夕貳才 本田ノ永川成引

但新田二而取立ル分如此

高合三万貳千百壹石五斗貳升五合七才

此取壹万四千壹石八升三合五才

右是者寛文四辰年分方岡田豊前守様・妻木彦右衛門様・御組頭守屋権太夫様・能勢武左衛門様・小泉茂右衛門様・青木喜左衛門様御下知二而本田之永引有之場所新田を以引之、一種代之所も同前二差引三万石之高二不構様被仰付、于今御勘定仕上ケ申候、然者此度書上ケ申通弥被仰付可被下置候、左様御座候得者本高江少も障り不

申候間、為御伺如此御座候、已上

上杉彈正大弼内

貞享五辰年八月

服部伊左衛門 印

岩瀬小右衛門 同

遠藤間兵衛 同

遠藤作兵衛 同

小山弥兵衛 同

舟田善右衛門 同

小沢名兵衛 同

(37)

御勘定所

上江付札

書面之通米沢領高三万石之内年々引方之分先年被相窺、新田之高物成を以足之、御勘定をも被仕上候趣令承知候、然処二去卯年方紙面之通引方之分八高之内書二いたし新田高物成二無構様二可被致之旨、尤二候間、従去卯年右之積りを以御勘定被仕

上、勿論当辰年差出右之通二認之可被申候、且又本田之義者跡々右四ツ八分定免二而、年二より引方ハ多少有之間可為其通候、新田之儀只今迄之通二定免二仕置候事不可然候間、当辰右年々検見次第入念御取ケ増減被致尤二候、此以後新田改出有之節者其趣差出二可相記候断者本文二有之候、以上

辰九月七日

(38)

右岩瀬小右衛門覚書長尾景邦謄写

上杉家編修所

伊佐早謙

〔その1終わり〕

〔その2〕

(1)

岩瀬小右衛門覚書

(2)

岩瀬小右衛門覚書

(3)

目録

- 一 御預り所二而御仕置者其外諸品払代御金蔵江納様御勘定所方御触之事
 - 一 諸運上諸拝借金銀薪材木払代漆年貢并払代惣而臨時物之金銀納様御差紙之事
 - 一 欠所銀上納之節納証文調様之事
 - 一 御年貢金浮役臨時物金銀上納目錄之事
 - 一 元弍頃迄之御金奉行其外御役人之仮名
 - 一 元弍御料所上り候節御代官御進物之事付手紙江進物之事
 - 一 同断付而室高岩瀬方進物之事付手紙進物之事
 - 一 同断付而三万石取立帳卯ノ年分儀助殿へ渡候事
- (4)
- 一 高島二平田居所并代官三人ノ家且又下役之家之事
 - 一 郷帳渡候事
 - 一 米沢二居代官遠藤舟田等儀助殿へ進物之事

一山ノ木実取候而六人ノ名主并小名主江渡置候事

一手代中下見分有之事

ル

一柘植伝兵衛殿御望二付而御領所品々尋之分答申遣候事

但兩度此所二品々有

一御領御私領境口留番人へ御書付之事、手代中へ答書也

一新升出目之事 欠米之事 寄藏敷物并諸品之事 入木足前之事

一諸色留り物之事

一御城米江戸通付而品々覚書之事

一高島方酒田迄道法之事 一西村久左衛門川舟一卷之事

一李平庭坂笹木野御城米たちん之事

一上銀卜国印卜ノ間七歩之事 一六石替之事

一寛六二上ル辰御勘定之事 一寛七二上ル巳の目錄之事

一所払一卷之事 一屋形様新宿境上覽之事

一新宿村之内焼失付而拜借之事 一高島右同断

一 寅御年貢米并夫直拝借所払御伺之事

一 馬売買役錢御伺之事

一 山蠟払代同断

(5)

一 雜駄売買役同断

一 追駒代之事

一 御年貢米夫食拝借御伺之事

一 百姓作米願之事

一 せり駒之次第并雜駄之事

一 牛役之事

一 牛数之事

一 上納金目録并御金札之事

一 此方之江戸御納戸へ金銀納請取之事

一 上納金目録之事

一 卯辰兩年分上納金ノ員数之事

一 田地出入御裁許之事

一 知行割

一 運賃割御定之事

一 駄賃御定

一 関東口米之事

一 同石代之事

一 御関所手判之事

一 天和元御順見之事

一 酒造様伺之事

一 八丁目通村高之事

一 一切支丹類族之事

一 御料免許者之事

一 高島川井二当分御蔵米高石代之事

一 御米中札調様之事
一 延宝四年宗門人数

一 江戸二而御寄合日
一 新升一卷

一 貞三郷帳之始り

(6)

岩瀬小右衛門覚書

(元禄二年幕府直轄となるにつき勘定所より申し付け)

元禄二年御料所上り申付而御勘定所方段々申来候留

巳ノ二月廿二日

御勘定頭衆方連書御手紙来二付尤御返答右同日二辻六郎左衛門殿へ作左衛門被遣自
分之様ニ承候御挨拶覚

一 御預御領所被差上二付而御在所方役人衆被為差登候由御尤存候

一 今日差越申書面之通成上納金於有之ハ御預所被差上二付而、猶以可有御心得儀二候、

役人衆被登候ハ、相知可申候

(7)

一被指上候御領江御代官被仰付候得共、未誰共不知候、縦被仰付候而も八月迄ハ其地江ハ不参事候、急ノ義ニハ無之候其内御役人衆被差登ニテ可有之候八月迄ノ内ハ支配人被仰付候共、其方方御役人江承合等可被致迄ニ候

一三万石其地御代官江後日被相渡候共、不被相極内者今日ノ書付之通成金子等上納も如前々可有御心得候

一所払之義如例年役人衆被申立、去年分御勘定仕上被申義毎年ニ替儀無之候、去年分も当年御上納被成候へハ御隙明ニ候、縦霜月迄御懸り候共不苦候、自然当年御勘定被成悪ク候ハ、是又例年之通来年御仕上ケニても不苦候事

右之通作左衛門承可申分其元へも可被遣候由、上意ニ付如此候

一右之外御連書ノ内敷質取上金有之候、敷質と申義ハ山林等材料木などをいか程ニ申請度と申者有之付、其代金を先請取、其後右之林を其ものへ相渡、半ニ至而或逃又ハ御約束仕候へ共損亡罷出候間、御免被下候得なると為申間敷之由、田畠等又ハ払物ノ入札等ニも敷質を取申候旨六郎左衛門殿被仰聞候

一高梨吉右衛門借刀之義、六郎左衛門殿へ申達候処二いかにも御聞届不遲儀ニ候間、

所払願ニ被參候役人衆登二刀主江御渡候様

(8)

ニと御申候

右ハ二月廿八日見届申候

ル

(預所で仕置欠所の家財などのこと)

御預り所ニ而御仕置ニ成候もの欠所家諸道具并逐電もの家財倒もの雜物捨物類ノ払代請負等敷質取上金又ハ過料等向後御金藏江被相納候節、御年貢金と不被致、一所包わけさせ且又御金奉行衆へ罷出候書付ニも其わけ記之可被相納候、書面之外ニも右之類之金被相納事ニ候ハ、至其節可被相伺候、此趣從我等共相触候様ニと御勘定頭衆差図付而如此候、以上

二月廿一日

辻六郎左衛門

保木弥右衛門

細田三右衛門

平岡三郎右衛門

井出平八郎

上杉彈正大弼殿

家来衆

追而右ノ金御勘定被仕上候儀ハ前々之通ニ可被相心得候、以上

ル

(諸運上・拝借金などのこと)

又

諸運上諸拝借金銀薪材木払代漆年貢金并払代金惣而臨時物之金銀有之而御金藏へ被相納候節、御年貢金と右品々之金銀わけ知候様ニ被致、御金奉行衆へ被出候書付ニ銘々記之御納可有候、闕所道具并倒者逐電もの雜物家財捨物類

(9)

之払代敷質取上ケ金過料金等之儀者当春委細申遣候通ニ候間、御心得可有之候、右ノ段御勘定頭衆御申付如此候、以上

巳五月

井出平八郎

保木弥右衛門

細田三右衛門

辻六郎左衛門

室高六郎左衛門殿

岩瀬小右衛門殿

尚々右之金銀御勘定被仕上候儀者前之通御心得可有之候、以上

但御本書有り

(高梨利右衛門の欠所上納のこと)

上納仕闕所銀之事

一銀五匁三分七リン五毛 大黒包

右是ハ羽州米沢御領新宿村百姓鳴津利右衛門先年悪事仕候故御追放ニ罷成候処、姓名を相違イ高梨吉右衛門と改、最上所生之由元禄元辰ノ九月上下を着シ内御寄合江罷出米沢御領金山掘申度旨奉頼候、御詮議之上辰ノ極月斬罪ニ被 仰付候故、脇差取上払代銀上納仕候者也、仍如件

元禄二巳年七月十日

小沢名兵衛

岩瀬小右衛門

室高六郎左衛門

永井内蔵助様

大岡喜右衛門様

(10)

大柴清右衛門様

々

(貞享四年・元禄二年の年貢浮役上納のこと)

上納仕金子之事

一七百八拾九兩貳分卜銀三匁七分五リン

内

一三百貳拾五兩貳分

貞享四卯之年

永納負方金

一四百六拾四兩卜銀三匁七分五リン

貞享四卯年石代之内

夫食借元利代金

一三千七百拾五兩卜銀貳拾三匁七分七リン三毛三チン

内

一千百貳兩卜銀六匁八分壹リン三毛三チン 元禄元辰ノ年

永納金

一七百八拾六兩卜銀九匁五分 元禄元辰ノ年

浮役永納金

一千八百貳拾七兩卜銀七匁四分六厘 元禄元辰年

石代所払金

一壹兩貳分卜銀四匁五分六厘二毛五チン 元禄元辰年新宿金

山出荷払代金

一壹匁九分五リン 元禄元辰年新宿金

山向吹金但銀納

一貳拾六兩三分 御年貢米納藏三ツ元

禄二年巳ノ六月払代金

小判後藤庄三郎包

合四千五百参拾貳兩三分卜銀参拾四匁三厘五毛八チン

銀大黒常是包

右是者米沢御領貞享四卯元禄元辰兩年分御年貢金

浮役臨時物金銀上納仕候御請取可被下置候、已上

元禄貳巳年七月十日

小沢名兵衛

岩瀬小右衛門

室高六郎左衛門

永井内藏助様

(11)

大岡喜右衛門様

大柴清右衛門様

ノ

(万治三年頃勘定役人・金奉行同心ら氏名)

万治三ノ頃 本郷新鷹匠丁 松平越後守西小路 浅草前ノ丁

御勘定頭 青木喜左衛門殿 守屋権太夫殿 小泉茂右衛門殿

本鷹匠丁

能勢武右衛門殿

御勘定奉行岡田豊前守殿用人

近藤与右衛門 齋藤与兵衛

妻木彦右衛門殿用人

川下勘兵衛 坂下善兵衛

御金奉行同心廿人ツ、

一新はしからす森 大柴清右衛門 一牛込大わらし 諸星清左衛門

いなりのわき 前

一式百俵 小泉市太夫 一式百五表 久保七郎左衛門

浜丁築地 りうけいはし

大村与右衛門

御藏書替衆 手代六人

一千石 浅草御藏前 本多彦右衛門

豊原左介

浅岡市左衛門

御藏衆 役料貳百俵手代四拾八人

御藏番貳十四人小上ケ貳百五十人

貳百石

小林又左衛門 岩出彦兵衛 宮重十左衛門 遠藤新兵衛 豊前

喜左衛門 武藤十郎兵衛 川窪三左衛門 荻原源左衛門 小西甚左衛門

(12)

(元禄二年六月二五日から七月一七日まで代官小林儀助交渉経緯)

覚

一火ノ番町御納戸同心林喜兵衛と申者之屋敷借地之由御代官小林儀助殿六月五日二被
仰付候

一六月廿五日儀助殿家来大河原源太左衛門方迄拙者召仕甚内為使差越候、口上二岩瀬

小右衛門申上候三万石之御預ヶ所此度差上候処二儀助様御代官二被為成候而珍重之御事奉存候、疾二御見廻可仕候へ共、彈正在所二罷在候、以飛脚御悅可申上と存候、然ハ先達而御見廻申義年越申たる儀二候間相扣罷有候、押付從国方御悅可申上候間、其節我々も御悅二参上可仕候、餘り遅成り申様二御座候付而、御自分迄申入候、御次而時分宜様頼入存候未不得御意候へ共如此二候由、甚内申候へハ源太左衛門挨拶二ハ被入御念候御使二御座候、則儀助二可為申聞候由申二付而、甚内申様二ハ御自分様迄申越候へハ儀助様へ被仰上候義、曾而御無用二可被遊候由、才覚申候へ共左様二ハ無之由二而儀助殿へ大河原申達候へハ

一儀助殿御返答二ハ、被入御念候而御使忝存候、其元御預ヶ地被差上候付、支配役被仰付候、從御在所御使者不被遣前二ハ御延引二而以後御見廻可被成候由御尤存候、何も懸御目候而委細可申入候由、儀助殿返答、源太左衛門甚内二申聞候事

一甚内壺二丁参候へハ呼歸し候て大河原山口兩人申様二ハ

(13)

彈正様方ノ御使かと又兵衛申付而彈正家来岩瀬小右衛門使之様申候へハ承届申候、然ハ山口申様二ハ御屋敷御家老ハと尋候処、千坂兵部と申候、御国元ハと申候二付

而長尾権四郎、須田右近、松木彦左衛門と申候、御国元ハ何ほとノ道法と尋候二付テ八日路有之由申候

一山口申様ニハ御預り地御勤之節何人ニ候哉と申候、六人ニ而相勤申候、御役頭ハ無之哉と尋申候故いかにも旧冬役頭相定り申候、然ハ小右衛門殿之義ハ御代官ニ候哉と申二付而いかにも其通ニ候へ共小右衛門義者古来をいまた不相更相勤来申候而年々差上申郷帳と申ニも支配役と申候間郡役と兩人迄ニハ御帳差上申致候由申聞候得ハ成ほと承届候由ニ而罷歸事

一 小右衛門殿ハ定詰かと尋申候故役義付テ年登ニ候由申候

一 六月廿六日暮方ニ稻生五郎右衛門殿松平美濃守殿萩原彦次郎殿諸星伝左工門殿へ之從屋形様御返事飛脚来ル

一 儀助殿へ箱肴二種并金子五百疋御使者山崎五右衛門但シ御不納ニ御座候

一 同人へ酒井左衛門様を箱肴二三百疋被遣候処是も不納候由

一 酒井殿壺万式千石上り地支配兩人儀助殿へ綿五把ツ、是も不納之由

(14)

一 六月廿九日儀助殿へ室高岩瀬小沢三人ニ而千疋持参手代山口又兵衛大河原源太左衛

門室山五郎兵衛ニ対面但山口所方覚書ニ・量之通相渡し候進物ハ不納ニ御座候

七月朔日

一三万石取立帳卯ノ年分六冊儀助殿へ差越候、源太左衛門又兵衛請取置

(上付札 如此相見へ申候へハ甘粕丹下御尋御覽可被成候哉)

一同二日儀助殿へ參右兩人ニ我々面談候而諸事相談、但同役三人ノ家ニ手代三人居筈

一平田善左衛門方居所ニ儀助殿差置筈、勿論下役三人ノ家ニ残し置筈其外ハ面々自分

ニ而作り申候方毀取筈其上三ツ之御蔵も掃除差置筈

同三日

一先触ノ飛脚ニ添状仕候而儀助殿手代江越候四日ニ江戸罷立候同役方へ之状も遣し之

事

同八日

一郷帳ニ六郎右衛門印判仕候而七月八日二名兵衛儀助殿へ持參申候大河原室山ニ渡シ

罷歸候事

同日

一同役両遠藤舟田祝儀五百疋折紙儀助殿へ名兵衛持參申候処是も不納書状ハ大河原山

口覚所ニメ七月三日ノ日付ニ而

同一〇日

一儀助殿へ参候而手代大河原源太左衛門・室山五郎兵衛・川嶋利左衛門・梶喜藏四人
二対面覚書ニ付札いたし式通相渡し候外ニ尅通ハ関所十一ヶ所之書付番人夫代百目
覚取候様子共ニ書付渡候、其節室山申様ニハ番人衆之儀兎角儀助下之上了簡を以何
分ニも可仕候間其内ハ先被指置可被下候由申候

(15)

同日

一山木実とり候て六人ノ名主其村々小名主表ニメ印府差置候得と申越候由申候へハ五
郎兵衛并源太左衛門儀助方へ之御手伝ニ御座候由申候事

同日

一郷帳受取検分之為ニ先三四人も十八日十九日此内ニ差下シ可申由ニ候

同十三日

一手代中下見分ニ付而案内ニ名主六人外ニ治部縫殿メ八人之書付ニメ大河原山口室山
所へ差越候

同十五日

一七月十三日二御代官衆何も御暇被下候処儀助殿病病ゆへ登 城無之十三日ノ御暇不被下候、依之何時御暇可被下も不被存候由、保木殿・平岡殿小右衛門二被 仰聞候事

同十七日

一儀助殿痲病見廻状大河原所へ差越候へハ其返事同前二山口明四ツ時分儀助宅へ御出候様二と紙面申越候へ共、廿一日迄御勘定二取込廿二日二可参由申越候へハ、又兵衛返事二当御地廿一日二発足二付而米沢二而万請取物遅々無之様二と申越候

一小右衛門名兵衛所へ又兵衛十九日参候様二切紙越候間、名兵衛十九日之朝参事候処二、又兵衛・八兵衛・宇左衛門三人居候得者五郎兵衛参候由又兵衛八兵衛廿一日二罷下候付而、先々郷村引渡シ二御下役成共御出シ可被成歟、但各様之内御忝人も御下之筈か手をつかへ不申様二と名兵衛二申合候、絵図之儀も左衛門様方先達而相渡り申候由、早々と申二付而先日二小右衛門取寄候へ共書入申事共之條延引申候、其訳ハ先年福島卜米沢

(16)

御領山論之所書入申候と才覚仕候へハ何も一段之義ニ御座候山論等ハ一応相済申候而も再起仕ものニ候間御書入ハ慥成儀と存候由挨拶仕候事

但於江戸御絵図其外急ニ引渡し申子細者痼病不相勝候由承ニ付而、延引申察之候通無間も柘植伝兵衛殿へ会谈之御差紙六郎右衛門小右衛門所へ從御勘定所被成下之候事、高畑御代官小林儀助殿病死ニ付、柘植伝兵衛殿へ当分被仰付候付而、諸事問合左之通柘植伝兵衛殿御好ニ付而小右衛門申遣之品々但八月十六日ニ御役儀渡ル

(先規定免四ツ八分の経緯、年貢地など様々)

覚

一先規定免極様之事

右ハ往古米沢四ツ壱歩高拾八万石、福島ハ三ツ七歩高拾貳万石都合三十万石ノ地、従会津打入被申以來家来を不召放差置被申ニ付而、給恩も存様ニ無之家中漸々困窮仕候故其節 御公儀之御内聞承寛永十五年ニ米沢福島を檢地仕候へハ打出高有之二付而、御軍役高二被仰付様ニ申上候へハ、家中へくれ置候へと被仰出付而、其砌方

家來之給人ニ打出高ヲ引足、米沢ハ平均定免四ツ八歩高、福島ハ四ツ七歩高ニシテ一領之時分宛行被申、米沢ハ今以四ツ八歩高ニシテ家中ヘクレ

(17)

置被申候故、四ツ八歩定免トハ申儀ニ御座候

一 御物成年ニより引様之事

右ハ定免四ツ八歩ニ有之上ハ豊年凶年ニモ差引無之を定免ト被思召上候ヘ共、最初二記申通此方々定免ニ仕候ヘハ百姓之不定儀ニ御座候故、日損水損ノ年ハ百姓願之通御勘定所ヘ得御下知不作之場所ヘ檢地人横目之者神文いたさせ遂檢地ヲ目錄ニシテ御勘定所ヘ差上引高を相除、御勘定帳ニ仕上ケ申儀ニ御座候、御証文ハ不申受候、一作引ハ勿論少分ノ永川成引ハ御証文不申請候

一 御米納様之事

右ハ十月ニ入四斗五升俵ニシテ七俵ニ付而、下敷ト申候而四合宛納申候、是ハ御領私領共ニ往古方御年貢米藏ノ敷筵張切手紙墨筆等ノ入用ニ仕候、御領ニ罷成候而も御証文ハ不申受候

一 同米納之節直段極様之事

右ハ納米之分夫食元利共ニ不殘書付時ノ相場を六人ノ名主書出シ夫を差添御勘定所へ差上ケ直段御吟味候上、御裏書被成御証文之通、仲上ケニ相渡現金ニ為払代金取立申事

一御年貢米金取立様之事

右ハ納米之儀最初ニ書出シ申通御座候、御年貢金之儀者其年ノ相場高下有之付而平均何ほととの積りと年々

(18)

相定取立申候事

一御朱印地有之候哉之事

右ハ龜岡村文殊安久津村八幡此両所へ延宝元丑ノ年より年々御寄附之御物成被仰付候、此御証文ノ写手代衆へ先達而相渡申候、本書ハ当七月中御勘定所へ御取上ケ別而御証文御代官へ御渡可被成由、御勘定組頭衆被仰候事

一除地有之候哉之事

右ハ帳面ニ仕先達而手代衆へ相渡申候

一高ノ内不納者有之候哉之事

右之類無御座候

一 郷帳之外御運上有之候哉之事

右之類無御座候

一 御林有之候哉之事

右ハ帳面ニ仕先達而手代衆へ相渡申事

一切死丹本人并類族ノ者有之候哉之事

右ハ帳面ニ改役人方先達而手代衆へ相渡申候事

一 鉄砲所持之者有之候哉之事

右ハ帳面ニ仕改役人方先達而手代衆へ相渡申事

一 五ヶ年以來取付ケ之事

右村免を平均定免四ツ八歩ニ取立候へ八年々ノ高下無御座候事

(19)

一 追駒致様并駒役人有之候哉之事

右ハ帳面ニ仕先達而手代衆へ相渡申候事

一 金銀銅鉛山有之候哉之事

右八新宿村二有之付而山師請負御証文之写先達而手代衆へ相渡申候事

一口留番二而御運上取立候哉之事

右八御運上無御座候、但他領方私領へ持參扨荷物之分

往古方役錢取立申候右番人扶持人差置被申候事

一大名主御扶持被下候哉之事

右八高畠村平右衛門二高五拾石、竹井村掃部へ廿五石、北和田村金之丞二拾弍石五斗、龜岡村平内二きり米三石、河井村三右衛門二三石、相森村伝三郎二三石如此私領方くれ置被申候事

一他領ノ山へ役錢出シ入来候村有之候哉并他領より御領分ノ山へ役錢出し来り候義有之候哉之事

右八別帳二其趣書上ケ差上申候

一御林守御ふち被下候哉之事

右八扶持人不申付候、但所ノ百姓ノ内ニテ山守ニ申付前々方差置申候

巳九月八日 岩瀬小右衛門

室高六郎右衛門

(20)

(小物成・高夫錢など様々)

覚

柘植殿御好之通挨拶申入品

一去辰年御物成差出シノ御扣御見せ可被成候并反別付様承度事

右ハ定免ニ御座候故差出シ反別等無御座候事

一御藏之儀承度事

右ハ御年貢米藏六ツ御座候内三ツ城下二有之御領分方手遠ニ御座候付而手代衆取立

ニ罷成入不申積り候而御勘定所へ御断申上入札ニハ御勘定仕上ケ申候事

一山蠟并漆蠟取立之訳承度事

右ハ先日取立払様共ニ申上候事

一口留番人御引可有事

右ハ近日引取申候、但家式軒有之場所ハ壺軒差置壺軒ハ此方へ引取可申候、但壺軒

御座候分ハ愈為引取可申事

一 此方御領所ニ被居候其元ふち人衆ノ家不殘毀取可被申候哉、殘置候家も有之候哉、承度候并右之衆居屋敷田畠高外ニ而不納ニテ候哉承度事

右八面々入用ニテ作り候間引取可申候、但居ヤシキノ義ハ改出シノ帳ニ書記先達而手代衆へ相渡申通ニ而高ノ外ニ御座候

田畠ノ内ふち切米ニわたり候分ハ高ノ内ニ御座候間、当御年貢ヲ面々相濟彼田地引渡シ可相立候并手代地ハ或買求或入用を以新田開作仕候此分ハ御年貢相濟候ハ、相當に売払

(21)

申ニテ可有御座候事

一 右之衆ノ内作取仕廻候ハ、其元へ引越可被申由、儀助殿手代へ被申候弥其通ニ而候哉左候ハ、田地屋敷等ハいかゝ被致候哉承度事

右ハ作取仕廻候ハ、弥引越可申候手作田地御年貢等ハ被仰付次第ニ為相濟可申候、屋敷等ハ右ニ書記申通ニ御座候事

一作米ノ借様承度事

右ハ四ツ八歩高百石ニ付テ四石五斗宛ニ一年一割ノ利米を加御証文ニテ借渡シ其暮

二御年貢同前二取立申候事

一高夫錢之義定役二て御座候哉又八年々高下御座候哉承度事

右八定役二・取立申候郷帳二記申通二御座候事

一入木足前錢之儀百姓家数壺軒付而永三百六拾文と相見候定役二テ御座候哉又増減御座候哉承度事

右八定役二・取立申候郷帳二記申通増減無御座候事

一郷錢并山錢定役二御座候哉承度事

右八定役二・取立申候郷帳二記申通二御座候事

一懸錢定役二而御座候哉何やうの役二て御座候哉承度事

右八五石受二・取立可申と百姓共二申付候へ八往古々六石受ノ永納二御座候へ八五石受二御所納仕候而八末々四石受二も可

(22)

罷成様二百姓共存本銀何程と御定米沢福島共二被 仰付被下候へと願申付而大法八五石受之積り二して所二ヨリ懸り銀とも申又附益銀共申候而取立申候、福島二も同様成取立先年仕候、郷帳之通増減無御座候事

一右之外浮役臨時物何も永納銀詰ノ勘定と相見へ候、先規る左様之訳御座候哉様子承
度事

右八御年貢銀同前二往古る銀詰ニ取立申候、郷帳面ニ記申通ニ御座候事

元禄二(老?十四力?)

己九月十五日

右ヶ条ノ内

一旱損水損之義ハ三步一迄一作二引捨申事

(御領と私領の諸物流通のこと)

覚

一組柳筑茂両番所へ御領所并他領方参り懸り候荷物之分ハ相定荷役錢を取立可申候、
此口は本判所ニハ無之候得共参り懸り候付而荷物役錢取置候由、荷物持参候者ニ可
為申聞事

一他領江錢出候事無用ニ候、腰錢之分ハ可相通候、但当地ニ而致売物候錢老貫文式貫
文持参候ハ、其品聞届可通候、背負荷駄ニ通候者可致吟味事

一御領所之いたが御私領方米持参候儀ハ壹表之内ならハ通シ可申候、但節々持参候ハ、可致吟味事

(23)

一御領所江買参候馬之飼料葛葉青引小糠酒ノ粕等ハ番人心得候様ニゞ可相通事

一御領所之者板貫材木竹等買持参候者勝手次第可相通事

一さし物の類手桶之類ハ内を見届可相通候并すり白石白等番人心得様ニ可相通事

一塗物之分ハ留り物二候へ共、御領所之者商物ニ無之持料之由而椀ならハ二具三具盆等右同断、手ニ引さけ持参候分ハ番人心得之様ニ可相通事

一御私領へ御領所之者糶売ニ参候儀ハ前々之通不苦候、御私領方御領所へ糶売ニ持参候儀ハ穀物同前二候間押へ可申事

一御領所方御私領へ染物誂持参候儀ハ木綿ハ不申及絹紬布共二何レノ口方入候共不苦候、染并白地共二自由二出入可為致事

一御領所之者酒を買持参候儀ハ駄荷ニゞ相通候ハ、可致吟味候、駄荷之外ハ番所を懸り断致候者勝手次第第二可相通事

一御領所之者鍋釜惣而鑄物ノ類買持参候ハ、無相違可相通事

一 蠟燭拾匁懸十丁廿丁并水油一盃貳盃八番人心得之様ニ可相通事

一 葉たはこ五斤三斤切たはこ百匁二百匁遣料之由ニ而持参

(24)

候ハ、番人心得之様ニ可相通事

一 又はきの細引等拾筋十五筋并白苧青苧五拾匁百匁遣料之由ニて持参候者無相違可相通事

一 留り物之外雜物之分他領へ出シ候ニハ古来方西村助左衛門手判を以出シ来候へ共御領所へ買参候分ハ西村手判なしニ右雜物之分無相違可相通候、但御領所之外ハ可為前々事

一 御領所方売馬筑茂ノ市へ売ニ参候ニハ山崎弥兵衛入判ニテ筑茂へ参り幾日も致逗留、売兼罷歸候時分ハ筑茂之八右衛門裏判ニテ相通し可申事

一 御私領之馬御領所ノもの筑茂之市ニ而買参候時ハ両山下小印を八右衛門ニ預ケ置小国ニ而仕通其馬ノ品ヲ八右衛門書付弥兵衛所差越御領所へ相通シ可申候、右之出判八月切ニ御用前々奉行所へ差出申答候事

一 中山口方他国馬買求参候ニハ山村伝内入判ニ馬ノ毛付等迄致松木内匠裏判調参候ハ

、俎柳筑茂両口留無相違相通可申事

是迄巳ノ十一月十一日出ル

一高畑手代衆諸所番所ヲ入御私領へ参候節百姓並ノ板判ハ被相渡間敷付而書替之入判可相渡候歸候節余口望ニ候ハ、望ノ口番所へ此書付被相渡候へと可致挨拶候若又右書替請取間敷よし申罷通候ハ、仮名聞届武数留帳ニ可仕事

(25)

従此方申上分

一御領所之者并御私領九ヶ村之者共板札ニ而致出入密ニも可相成候而右之者共之面体を口番人見覚不申内板判を以出入御させ段ニ面体ヲ見覚候ハ、板札御止可被成歟、只今とても見覚之者ノ分ハ板判なしニ被成可然かの事、但御私領ヲ罷出候者之分ハ前々通ニ被成可然かの事

(蠟燭・穀物などの手荷物通行のこと)

覚

一蠟燭塗物絹紬布惣而いと類或又はき類

一惣而穀物水油等

右之通御領所へ手ニさけ往来仕候分ハ苦ケル間敷よし御中ノ間へ書付ニ・申上候処ニ
言上之上ニ外ニも品々一同ニ申渡候様ニと被 仰出右ノ(長)書付出ル、但シ巳ノ十
一月十日ニ差上也

(桶・魚鳥などの通行のこと)

覚

一先日從御役所御領所へ相通り申分書付ニ・各へ相渡り申外ニ五斗壺石作りの桶并金
具類魚鳥麩こんにやく此通無相違御通し可然候段御役所へ窺候処ニ尤候間、從我等
各へ申越候様ニ御奉行所方被 仰付候付如此候、以上

十一月廿六日 岩瀬小右衛門印

瀧口喜右衛門殿

鳥山五左衛門殿

(26)

(新升の出目、閏月の入木足前のこと)

去ル十九日村次之御状相達拝見仕候

一新升ノ出目 御公儀へ上り候式升口米ニハ懸り不申様ニ去辰ノ郷帳御勘定帳之扣ニ相見へ申候由被 仰越候、村々之取立帳ニハ五升口米ニも新升出目懸り候様ニ御申聞承知申候

一御公儀へ上り候式升口米ハ勿論残ル三升共ニ新升出目村々方取立候得共御勘定ニハ引落シ仕上不申、子細者寛文十戌年方新升被 仰付候処、古升方新升ハ小升故出目有之ニ付而右ノ訳御勘定所へ奉伺候所ニ、口米之義ハ臨時物ニ候間、出目之分本途ニ計書出シ可申由被 仰付候、然共往古方口米ニも出目有之積ニ候間不納ニも難成旨申上候へ共右之分臨時物ニ候間無用被 仰渡候付而、今更難引捨候間、納米壺石ニ付而壺升ノ欠米ニ而ハ御米払申時分欠米不足御座候、ケ様成引足米ニ仕ニテ可有之歟と申上候得者壺升之欠目ニ而者不足之儀尤候間、左様仕候而可有之旨前々被 仰渡付而口米ノ出目御勘定ニハ仕上ケ不申候、尤本田新田共ニ右之通ニ御座候

一寄藏敷物等ニ壺升ノ出目ハ仕候哉と被 仰越候、左様ニ而ハ無御座候、郷帳御勘定帳ニ相見へ申候、壺升之分ハ欠米ニ御座候

一寄藏敷物諸色入用ニハ四斗五升壺表付而四合宛跡々方私領同前ニ取立是ヲ遣申候

(27)

一入木足前錢閏月有之年八老軒付而一ヶ月二永三拾文宛取立申候而従前々御勘定二仕
上ケ申候先日ハ致失念不申進候

一去十八日之御報二誰ぞ参候得由段御達候所雪風故延引と被仰聞承知仕候則役人共両
人差越申候委細可被仰聞候上致

十二月廿一日 岩瀬小右衛門

室高六郎右衛門

竹嶋武兵衛様

鹿沼新右衛門様

御報

巳年八月八日二

竹井五右衛門 中和田半右衛門 亀岡又八 高島長四郎

高島権右衛門 高島太郎兵衛 高島権六 高島十郎右衛門

高島庄兵衛 高島小左衛門 高島利左衛門 高島甚兵衛

新宿徳右衛門 新宿筋鴨左衛門

酒屋拾四軒 但堀金惣右之門吉井重助 小野八郎右衛門

所方帳面取高島へ遣す

(元禄二年十一月柘植手代鹿沼・竹嶋へ留物につき申遣し)

巳ノ十一月七日柘植伝兵衛殿手代鹿沼新右衛門竹嶋武兵衛所へ留り物之義申遣覚

一 武具并兵具之類 一 馬具

一 刀脇指但指料之外 一 弓鏑鉄砲玉薬共

(28)

一 鉛 一 女童

一 蠟附蠟燭木実 一 漆附塗物類

一 真綿絹紬 一 布青苧白苧

一 細引又ははきの類 一 米大豆油酒

一 惣而穀物 一 畳莫産

一 藺草灯真 一 藍たはこ

一 朱 一 惣而糸類

一 楮

右之通御座候以上

巳

十一月七日 岩瀬小右衛門

鹿沼新右衛門殿

竹嶋武兵衛殿

(延宝七年より元禄元年まで一作引帳)

延宝七末年より元禄元辰年迄十ヶ年内一作引帳ノハ書二

高合四千五百二十六石三斗三升九合 延八申年一作引

高辻六千五拾石壹斗九升六合 貞元子年一作引

高辻四千五百六十二石八斗八升六合 貞四卯年一作引

右之通一作引帳認候而柘植殿手代へ相渡申帳ノ寄

元禄二年巳八月 岩瀬小右衛門印

豎帳故宛所なし

(29)

(米沢御領御城米江戸廻付について覚書)

米沢御領御城米江戸廻付而品々覚書

一六千弍百表程 高畑川井両御蔵方

右ハ板谷新宿両口ニ而如此但年々不同有之四月中方両方へ出ル

但柘植殿代弍弍千表御城米千表ハ板谷千表新宿依之鹿沼案内状遣ス江戸廻年ニヨリ

不同

(江戸に板谷廻りの駄賃)

駄賃之覚

一五拾六文 よね沢方大沢迄 一五拾六文 大沢方いたや迄

一四拾三文 板谷方李平迄 一五拾壹文 李平方庭坂迄

一弍拾弍文 庭坂方ささ木の迄 一弍拾八文 ささ木の方福島迄

一九拾文 ふく島方水沢迄 一五拾六文 水沢方荒浜迄

但庭錢共二

ル 四百弍文 丁百二

右ハ米沢方荒浜迄御米壹駄分之陸たちん高畑方ハ

少駄賃増候

運賃

同

一七両 あら浜を銚子迄但百石二付而 一貳両 てうしを江戸迄同断
右之外めん石粮米百石二付而六石宛相渡ス但荒浜米

相場二・船頭江壳渡ス

(江戸に二井宿廻りの道程)

新宿方之道程

一新宿ヨリ湯ノ原へ二里拾八丁 一湯ノ原ヨリ峠田へ 壹里半

一峠田ヨリなめすへ 壹里半 一なめすヨリ関へ 壹里半

(30)

一関ヨリ渡ル瀬へ 貳里 一渡ル瀬ヨリ戸沢へ 壹里半

一戸沢ヨリ小坂へ 一里六丁拾八間 一小坂ヨリ南半田へ 壹里

一南半田ヨリおはた村 壹里 阿隈川

上桑折村

舟入

一上桑折村ヨリタン崎村トクエ村二ノ■村アワノ村築川村やわた村舟生村伊佐沢村迄

川通り三里余それより水沢へ出ル荒浜より銚子迄右同断江戸着

(江戸に最上川下り酒田まで道のり)

高畑方中野舟町夫ヨリ酒田迄陸川道法

一高畑赤湯中山上ノ山迄七里

一上ノ山黒沢松原片谷地吉原南館山形迄九里

一山形江俣内表中野舟待村迄壹里半

一大舟町ニテ舟入但是迄高畑方陸附夫方酒田迄いつれも川舟但舟町迄舟引為登候此運賃ハ無之

一舟町村中野目村高野村藤内村下長崎村今宿村大石田村迄拾里余

一大石田村弥堀尾花沢大浦堀内村清水蔵岡古口迄六里余

一古口村柏沢清川堀場小楨亀ヶ崎酒田迄五里余

但高間伝兵衛才覚ニ八大石田村方中野舟待迄川法八里ト申候此内ヲ引為上申ニ八不及運賃之由申候

(31)

中野舟待方酒田迄運賃百表二付而六表宛川法三十里但舟待ノ内ニも所ニヨリ五表三

表ノ所も御座候由、中野舟町ニ役人置米積場所何程も御座候由、石方三千石付而百六十五兩陸付舟待迄駄賃但壹表ニ付而式百式拾文ニ・三百六表川舟酒田迄運賃金ニ・五十五兩壹石三斗抔

〆式百式拾兩ニテ米沢ヨリ酒田迄着岸仕候

(元禄七年西村久左衛門請負の舟運入用)

元禄七年分穀米西村久左衛門請負仕候而川舟海上共ニ

江戸着入用之覺

一 壹万三千七百俵 米沢穀米

右入用ニ西村久左衛門請取申分

一 三拾六貫八百九拾四匁一分

米〆三千六百八拾九表半 但壹表拾匁直ニ・

右ハ私領宮村方酒田迄百表付而式百六拾九匁三分ツ、但

但舟積壹万三千七百俵分

一 五千式百六俵 酒田方江戸迄百表付而三拾

八表ツ、舟積右同断但相場次

第

一百參拾七石

欠米但壹俵一升ツ、

(32)

表二・二百四表半

九千貳百俵 西村久左衛門請取分

元祿七年戌九月

上江付札

(酒田から東廻り運賃)

酒田東廻シ運賃

一五百三拾八匁六分 宮村方酒田迄但百石分

一七百八拾匁 酒田方江戸迄百石拾三兩銀

ニ・如此江戸迄但六拾匁割

貳貫三百拾八匁六分百石分

金二・貳拾壹兩三分拾三匁六分六拾匁割

(酒田から西廻り運賃)

同 西廻シ

一 五百三拾八匁六分 宮村方酒田迄川通百石分

一 壹貫百五拾六匁八分 酒田方大坂迄百石分拾三

石五斗之運賃米壹兩二七斗替六十匁割

一 四百六拾匁 大坂方江戸迄運賃百石分

一 貳貫百五拾五匁 百石分金二・三拾五兩三六分拾匁、六拾匁割

(李平・庭坂・笹木野での御城米取扱)

覚

一 李平・庭坂・笹木野三ヶ村之者共為御登米只今八五斗表二候得者牛馬もつかれ申候間、御城米並二四斗表二被成駄賃錢モ御城米同前二増テ被下置様ニ申候、為御登米ハ往古方五斗表ニ而相通申候殊駄賃錢も道中之者共先年合点之上相定申候、尤

(33)

一 御城米格ニ仕願申事二候へ共、御城米ハ為寄馬ニ而付送り駄賃錢も通仕廻相渡ル義二候へハ旁以所之助成ニ不罷成候、為御登米ハ駄賃も前金ニ相渡シ馬代之引足等も

毎年借置、勿論李平へハ飯米等も米沢出米用申候右ハ為御登米御通シ被成ニ付而之御手当ニ御座候、何角六ヶ敷義申候ハ、向後ハ酒田廻ニ罷成候者三ヶ村之者共も後悔可仕候、尤大沢・板谷ノ者共も御米通不申候ハ、つゝき申間敷儀も候へ共、願申増駄賃ノ内半分両村へ御手当ニなされ候ハ、是もつゝき申ニ可有御座候へ共、兎角李平なと及亡所ニ候ハ、米沢往来之不勝手ニも可有之と存、池田殿手代衆へ頼入前々通致候様ニ仕度旨元禄十五閏八月江戸登前五左衛門覚書ノ事

(西村久左衛門の口米、負担のこと)

西村久左衛門分

一舟江戸着表廻シ壹俵ニ一升宛之欠米ハ可相立壹升ノ外ハ江戸相場ニ久左衛門欠金出筈之事

一壹表付而壹升宛ノ口米酒田ニ而被下事

一舟破損之儀ハ御私領大瀬迄ハ御損運賃ハ久左衛門損大瀬境方酒田迄ノ川通ニテ破船有之時ハ久左衛門弁申筈之事

一海上ニ而破船有之共御損米不相定、江戸相場次第代金ニ而久左衛門出筈之事

(34)

(元祿二年七月兩替レートなど平岡へ小右衛門相談のこと)

覺 但巳七月廿七日平岡四郎右衛門殿へ小右衛門持參御相談御合点ノ上御帳ニ御付被下付而其節ノ留也

平岡殿ニ申入ル御帳ニ付ク

一 上銀国印との間ニ七歩之歩合有之、但銀壹匁付而永拾五文替ニ・永壹文五リン宛歩を取立御勘定ニハ本永拾五文宛仕上申候是ハ毎年米所払御証文ニ而売立申内相場下直ニ成、損永百姓ニ難申付候故、寛文五巳年十月十八日妻木彦右衛門様御内寄合之刻右之趣小泉茂右衛門様を以奉伺候処ニ、尤往古々ノ歩合ニ候ハ、勿論之由被 仰付候故、不相替歩合を以仕払不足之分ハ資料ニて損亡

一 兩替五十八匁ニ取立六十匁更ニ御勘状仕上ル是ハ鏝ノ相場金壹兩付テ四貫八百文替但銀壹匁ニハ鏝八拾文遣ニ・如此壹分ニ而取立候分ハ兩替候差引壹分ニ付鏝四拾文宛歩合在之、是も米所払御証文を以売立相場下直之損亡百姓ニ難申付候故鏝四拾文宛ノ歩合を以右同前ニ奉伺仕払來、不足之分ハ私領ニ而損亡之事

一 永壹貫文ニ六石替ハ四斗表ニ付而銀四匁四分宛之相場を以往古ニ定ル、但永ハ壹兩ニ九百文ノ積り、金ハ六十六匁更ニ銀壹匁ニ永拾五文宛取立、但近年ノ相場ハ金

壹兩二五拾八匁或九匁或六拾匁更ニ御座候事此ヶ条八巳七月廿二日、廿六日ニ右同人へ出ヌ小右衛門勤

一入木足前之事 一高夫錢之事

(35)

一懸り錢之事 一口米口錢之事

一野錢山錢之事 一蠟漆之事

一新升之事 一石代之事

一兩替之事 一銀壹匁永拾五文替之事

一糶駒之事 一馬売買之事

一山蠟之事 一四ツ八步定免之事

一雜駄売買之事 一文殊八幡領之事

右八巳ノ七月廿二日、廿六日兩日ニ右御同人様ニ御内談ノ上御勘定所へ差上御分帳ニ御付加へ此時分七ヶ条首尾好無残事濟同八月五日ニ於御中ノ間委細右之訳申上ル

但七ヶ条惣寄ノ書付ハ別紙ニ有之

(寛文六年屋代郷勘定目録)

寛六二仕上ル

辰年御勘定目録

上付札

御半知ノ年始而ノ勘定但一ヶ年度ニ仕上申付而寛六ニ如此

一高三万石 出羽国屋代郷米沢領

此取壹万四千四百石 四ツ八歩

内七千弐百石 永納但壹貫文付六石替

積り先年方納来ル

外

一永五百五拾八貫四百拾文 浮役

百八拾貫文

米沢領三万石分高夫銭

百石付テ永六百文宛

(36)

内百七拾五貫五百文

入木足前錢家數四百五十

軒分但壺軒壺ヶ月二三拾文宛

閏月共二拾三ヶ月分

貳百貳貫九百七拾文

野錢山錢

一永八拾五貫九百三拾三文

蠟売代

此蠟目四百拾八貫七百四拾目

貳百拾五貫目

上蠟金壺兩二付四貫貳

百匁宛

此金五拾壺兩銀拾壺匁四分貳リ

内是八米沢領蠟所払二被 仰付如此但岡田豊前守妻木

彦右衛門証文有之

貳百三貫七百四拾目

並蠟金壺兩二四貫六百

匁宛

此金四拾四兩壺分銀貳匁四分八リ

右同限り

一永四拾五貫貳百貳拾三文 漆ノ代

此漆目五拾貫貳百四拾八匁 但永壹貫文付而漆壹貫

百拾壹匁余ツ、

一米貳百六拾四石

臨時物

百貳拾石

米沢領夫食借利米但本米

内

千貳百石分壹割ノ積り

百四拾四石

納壹石二付五升宛ノ口米内

三升被下残貳升分如此

納合壹万六千三百八拾八石六升五合

納次第

一米壹万四千六百六拾四石

納

一永六百八拾九貫六百貳拾六文 同

此渡方

(37)

永四百六拾壹貫八百三拾七文

須田傳左衛門

梶川七之丞

渡

西尾彦四郎

久保田又六郎

此銀三拾貫七百八拾九匁壹步

但永拾五文二銀壹匁替

此金五百拾三兩貳朱之中

但金壹兩二六拾匁替

米七千貳百石

同人渡

此永千貳百貫文

但永壹貫文付米六石更

此銀八拾貫目

但永拾五文二銀壹匁替

此金千三百三拾三兩壹分壹朱之中 但壹兩二付六拾匁更

是八辰年米沢領御年貢米之内半分永壹貫文二六石替

積を以跡方百姓金納仕来ルニ付テ如此

永八拾五貫九百三拾三文

西尾彦四郎

須田傳左衛門 渡

梶川七之丞

此銀五貫七百貳拾八匁九分 右同直段

此金九拾五兩壹分三朱之中 同同直段

米七千四百三拾三石四斗壹升 同人渡

此金貳千三百貳拾貳兩三分三朱 但金壹兩三石貳斗更

是者米沢領辰年御年貢米之内所払二被 仰付百姓金納、但岡田豊前守・妻木彦右衛門・小泉茂右衛門・守屋権太夫・能勢武左衛門・青木喜左衛門証文有之

永四拾五貫貳百貳拾三文 木部藤左衛門

太田六左衛門 渡

(38)

此銀三貫拾四匁八步八リン 右同直段

此漆目五拾貫貳百四拾八匁 但銀六拾匁二漆壹貫匁更

永三拾八貫四拾文 御米藏建申入用

此銀貳貫五百三拾六匁 右同直段

此金三拾八兩壹分錢六百九拾文 但壹兩六拾六匁替

是八巳年米沢領御年貢米入置申御藏無御座二付高畠村二三ヶ所米沢壹ヶ所合四ヶ所

新規二御藏建申入用諸色直段吟味之上如此但岡田豊前守妻木彦右衛門証文有之

永五拾七貫百八拾三文

樋之入用

此銀三貫八百拾貳匁貳步

右同直段

此金五拾七兩三分錢四拾貳文

但壹兩二付六拾六匁替

是者已年米沢領御藏入之内龜岡村・入生田村・船橋村・露藤村此四ヶ村之用水之樋破損付修復諸入用直段吟味之上如此、但岡田豊前守・妻木彦右衛門証文有之

米三拾石五斗九升

右同入用

右同限り

永壹貫四百拾文

漆届駄賃

此銀九拾四匁

此金壹兩貳分錢貳百四十文 但壹兩六拾匁更

壹兩壹分 是八辰年漆五拾貫貳百四拾八匁米沢方江戸

迄相届候駄賃貳駄分、壹駄二付貳分式朱宛

(39)

内 但岡田豊前守妻木彦右衛門小泉茂右衛門

能勢武左衛門青木喜左衛門証文有之

壹分銀四匁 是八右之漆江戸へ相届候節從米沢江戸迄

道中漆式駄分宰領壹人分但証文右

同限り

永渡合六百八拾九貫六百貳拾六文

米渡合壹万四千六百六拾四石

右之通御勘定仕上申候、若相違之義御座候ハ、何時成共仕直シ差上可申候、已上

上杉喜平次内

寛文六年八月

志賀善左衛門

蓬田兵右衛門

御勘定所

前書之通金納札并扨方手形を以辰年御勘定帳二書載候、後日為覚目録之写二奥書如此候、若以来代官百姓出入於有之者此御勘定可為反故候、已上

寛文六年九月

小 茂右衛門

寺 権太夫

能 武右衛門
妻 彦右衛門
松 猪右衛門
岡 豊前守

（元禄二年屋代郷勘定目録）

巳年御勘定目録

出羽国屋代郷

一高三万石 米沢領

（40）

貳千七百四拾八石九斗七升 当巳旱損引

内 拾壹石壹斗二升六石 永川成引

残高貳万七千貳百三拾九石九斗四合

此取壹万三千七拾五石壹斗七升 高二四ツ三分五リン八毛有

高二四ツ八歩

内六千五百三拾七石五斗八升五合 永納壹貫文六石替積り

金納

外

一 永五百四拾四貫九百七拾文

浮役

百八拾貫文

米沢領三万石高夫錢百石

二付永六百元宛

内 百六拾貳貫文

入木足前錢家數四百五拾軒

分但壹軒一ヶ月二冊文宛十二

ヶ月分

貳百貳貫九百七拾文

野錢山錢

一 八拾五貫九百三拾三文

蠟壳代

此蠟目四百拾八貫七百四拾目

貳百拾五貫目

上蠟金壹兩四貫貳百匁替

此金五拾壹兩銀壹匁四分貳リン

是者米沢領巳年納蠟跡々ノ通所払仕可然旨御勘定所

内 得御下知上杉喜平次家来吟味之上定直段を以金納如此

御座候 但岡田豊前守妻木彦右衛門証文有之

式百三貫七百四拾匁 並蠟金壹兩四貫六百匁替

此金四拾四兩壹分銀式匁四分八厘

右同限り

(41)

一永四拾五貫式百式拾三文 漆壳代

此漆目五拾貫式百四拾八匁 但金壹兩壹貫匁替

此金五拾兩銀拾四匁八歩八リ

是八巳年分納漆跡々之通所扨二仕可然之旨御勘定所へ得御下知を上杉喜平次家来吟味之上定直段を以金納如此御座候、但岡田豊前守・妻木彦右衛門証文有之

一米式百五拾石七斗五升式合 臨時物

百式拾石 米沢領夫食借利米但本米

内 千式百石分一割二・

百三拾石七斗五升式合 納壹石二五升宛口米之内三升

被下残式升分如此

納合壹万五千拾六石式斗三升七合

右納次第

一米壹万三千三百式拾五石九斗式升式合 納

一永六百七拾六貫百式六文

同

此渡方

須田伝左衛門

永三貫百五拾文

梶川七之丞

渡

西尾彦四郎

久保田又六郎

此銀貳百拾匁

但永拾五文二壹匁替

此金三兩貳分

但壹兩六拾匁替

須田伝左衛門

永五百式拾壹貫六百拾壹文

西尾彦四郎

渡

後藤弥右衛門

(42)

此銀三拾四貫七百七拾四匁分 右同直段

此金五百七拾九兩貳分壹朱 右同直段

米六千五百三拾七石五斗八升五合 同人渡

此永千八拾九貫五百九拾七文 但壹貫文六石替

此銀七拾貳貫六百三拾九匁八步 右同直段

此金千貳百拾兩貳分貳朱之中右同直段

是八米沢領已ノ御年貢米之内半分永壹貫文二付而六石

かへノ積を以百姓金納仕来ル付如此

米五千三百拾三石九升貳合 同人渡

此金千七百拾三兩三分貳朱之中 但壹兩三石壹斗替

是八米沢領已ノ御年貢米之内所払二被 仰付百姓金納 但

岡田豊前守、妻木彦右衛門、小泉茂右衛門、能勢武左衛門、守屋

權太夫、青木喜左衛門証文有之

南条小兵衛

永百五拾壹貫三百六拾五文 後藤弥右衛門 渡

西尾彦四郎

須田伝左衛門

此銀拾貫九拾壹匁 但永拾五文銀壹匁替

此金百六拾八兩三朱 但金壹兩六拾匁替

米千三百貳拾石 同人渡

此金四百七拾壹兩壹分三朱 但壹兩貳貳石八斗替

是八米沢領巳夫食借本米千貳百石一割ノ利米百貳拾石

(43)

加子所払二被 仰付百姓金納、但岡田豊前守、松浦伊右衛門

守屋権太夫、小泉茂右衛門、能勢武左衛門証文有之

米百三拾七石九斗五升 樋之入用

此金四拾四兩貳分 但壹兩三石一斗替

是八米沢領御藏入之内龜岡村・入生田村・舟橋村・露藤村此四ヶ村へ懸申用水之

樋午ノ五月洪水ニ付破損之所

修復諸色入用直段吟味之上如此、但岡田豊前守、妻木彦右衛門証文有之

米拾七石貳斗九升五合 同入用

右同理り

永渡合六百七拾六貫百貳拾六文

米渡合壹万三千三百貳拾五石九斗貳升貳合

右之通御勘定任上申候若相違之儀御座候ハ、何時成共仕直シ差上可申候、以上

一一一内

寛文七未年八月 志賀善左衛門

蓬田八兵衛

御勘定所

前書之通金納札并扨方手形を以巳年御勘定帳二書載候、後日為覚目録之写二奥書如此候、若以来代官百生出入於有之者此御勘定可為反故候、以上

(44)

寛文七未年八月 能 武左衛門

守 權太夫

小 茂右衛門
青 喜左衛門
松 伊右衛門
妻 彦右衛門
岡 豊前守

（延宝四年所払い一卷）

口上之覚

所払い巻延四二

一米沢御領所御年貢米所払い米下直之様ニ被思召福島江出シ候得と被成御意候へ共難
成子細ハ米沢方福島之間二十三里余之難所ニ馬次三ヶ所御座候、寄馬仕ル村山中故
跡先拾里之内ニ壺ヶ所も無御座候、往還之海道ニ無御座候故、半知以來漸々困窮仕
二付而、近年ハ右之馬次二牛を六十余立置江戸上り下り之荷物四月中旬方八月下旬
迄運送仕ル間を待合福島勝手ノ村方台所米へ少為相登申候是を相止御領米福島へ出
し候而も少分之御事ニ候へハ御取ケのさゝわり百姓も迷惑御損亡相立其上私領上り

下り差合二罷成候所之相場

(上付札 延三ノ所払米代金下直ノ由御勘定所方有之付而其訳申上又如前々二所払二成来候■)

(45)

少も相違無御座候故岡田豊前守様、妻木彦右衛門様御時以来辰之年分ハ金壹両三石式斗更戌之年ハ三石壹斗五升替亥ノ年ハ三石替如此前々より被 仰付候、然処ニ未ノ年者金壹両二式石八斗更之御証文二候へ共払申内直段高直二罷成候故式石式斗五升四合三斗替ニ・売出銀式拾六貫式百五拾匆余差上申候、去寅ノ年ハ金壹両二壹石九斗五升替ニ・御証文申請候処其後直段高直二罷成候故金壹両二壹石七斗一升六合六夕更ニ・拾八貫九百目売出銀御勘定二仕上ケ申候如此売出有之時ハ売出銀差上相場下直之時ハ彈正引足金仕御証文申請も偏ニ我々折角奉存候今程ハ結局金壹両二式石九斗八升九合或米二より三石之余も仕候へ共先達而差上候書付ニ相違仕候間式石九斗五升替ニ・御証文於被下者難有可奉存候、払申内高直二罷成候ハ、如跡之売出銀差上可申候、以上

一一一内

延宝四年四月

岩瀬小右衛門

御勘定所

右八正月中二彈正内用御座候而罷登乍次而御見廻申上候由にて

一去夏中所払之儀当年ハ江戸へ御廻シ被成儀も可有之由、兼而可被得其意旨御そら出

二候間申上候事

一在所之儀ハ九月上旬方翌年ノ三月迄雪中故百生ハ

(46)

四月方六月上旬迄田畠ニかかりさて又六月中旬方七月中旬迄日数三十日程隙明二候

へ共、此時ハ繩薦俵拵ノ心掛仕候七月下旬方九月上旬迄田畠ノ始末ニかかり候事

一六月中旬方七月中旬迄日数三十日ノ内右之繩こもの心掛を相止、御領米壹万八九千

表廻シ申二仕候而、一日二三百式十駄余ニ御座候故、大沢・板谷・李平此三ヶ所ノ

馬次ニ難所ヲ運送仕、馬今程無之ゆへ弥寄馬も不罷成、近年ハ牛を六十余立置自由

仕候、縦ハ彈正台所米ヲ相止、江戸ニ而買求或家来上り下りノ荷物年中二何百駄又

ハ台所荷物何ほとケ様成事をも相止、二日二六十駄方多福島出シ不相成候事

一年中二三十日ノ間二候へハ三十日二八千八百表ノ御米ニ御座候、少分之御事ニ彈正

家來行歸不自由ニ相成、百生も困窮、國中手詰ニ相成候へハ、彈正參勤之さ、わり
ニも相成候事

一 甲斐庄喜右衛門殿・岡部左近殿音物ノ少もとらぬ御方ニ候間懇意之衆を以申通候事
一 毎年定りニ・被遣候外ニ能勢殿初桜井糸原是三人へ急度音物被下可然存候事
右之通ニ而首尾好事濟罷下候事

(47)

口上書之覺

所弘一卷

一 今度米沢御預ケ之地、米下直仕候ニ付而、福島へ廻シ候様ニと被 仰付候へ共、山
中ニ馬次三ヶ所御座候、何も小宿ニ御座候へハ一ヶ村ニ馬數二十余三十余或ハ四十
一程御座候、山中之事ニ候へハ外方寄馬之分不罷成候故、三万石之御米方年中かゝり
候而も運送不罷成候、子細ハ喜平次江戸台所米七八千表余福島出シを仕江戸へ為登
申候、山中雪消候を相待馬足叶、四月初より十月半迄附出シ候、其後ハ雪積り候故、
背負荷ニ仕、漸福島へ出し申候、五月作時ハ民の疲を存延引申候、此通ニ御座候故
六月ノ内ならて運送不罷成候間、中々御米方福島へ出シ候事難罷成候、然者自分台

所米俵造り等惣百生共二割掛申付候故、左而巳民の疲二も不罷成候、御預ケ之地御年貢米尅万六千余ノ俵造り等三万石之百生共二申付候ハ、迷惑可仕候、其上右之御米所を出シ候者所之民百姓致迷惑、剩台所米尅表も為登申候儀不罷成候上八両所共二難儀仕候、台所米為登申候儀徳用程之儀二ハ無御座候へ共、有米二候故為登申候、就其寛文五巳ノ年岡田豊前守様、妻木彦右衛門様御勘定御組頭衆方米沢御預ケ地御米福島へ付出シ候へ由被 仰付候へ共、其時分も右之段候、如此北条安房守様、吉良若狭守頼入何も様へ申上候へ者

(48)

被 聞召分同三月廿二日二御裏判相濟、去年迄所払二被 仰付候、弥乍此上所払二被 仰付被下候様偏奉願候、以上

月日

岩瀬小右衛門印

御勘定所

(二井宿境上覽の道筋)

一前々新宿境就 上覽、御道筋八川井通り、亀岡御昼休夫方高畠御寓、翌日城江被為成 還御八時沢口上覽夫方赤湯へ被為 入候事

但小右衛門支配所二無之候得共右 御下りと有之候へハ代官中御賄心副被 仰付
小右衛門へハ金子貳分御帷子一ツ高島二而拝領被 仰付之

(貞享三年閏三月二井宿村火災)

羽州米沢御領之内新宿村町寅ノ閏三月七日焼失仕家数之覺

一家数七拾三軒

右之内壹軒火元二付而除申候

五拾壹軒 本百生

此金五拾壹兩 但壹軒付而壹兩宛

貳拾壹軒 水吞百生

(49)

此金拾兩貳分 但壹軒付而貳分ツ、

合六拾壹兩貳分

右之通紛無御座候間、御借被遊可被下置候、水吞百姓之義何も町並本百姓屋敷二自分
二而屋作仕罷有、其屋敷之御年貢水吞百姓方上納仕り尤其屋敷之内二御座候田畑も皆
作仕是又御年貢収納仕候、從米沢仙台へ之往還海道馬次二而御座候付而、御上使御通

之節御伝馬歩役も本百姓並二相勤来申候、偕又

上付札 火事拝借之願并御裏書有

御領所之内御米蔵樋橋川除等ノ御普請役迄高持同前二相勤申候、依之延宝三卯年当所
新宿村町家焼失仕候節水吞二も拝借金被 仰付候、左様成例を以当町高畑町家焼失二
も拝借金奉願御借被為成候、尤高畑村町水吞百姓勤方諸事新宿村町と同事御座候、勿
論水吞百姓之内老人も棚借ノもの無御座候、本百姓之屋敷二罷在老軒役本百姓方ハ無
構、水吞百姓方ノ諸事御公役相勤申候拝借金被 仰付不被下候へ者家作可仕様無御座
候間、御借被遊被下候様二奉願候、於然者来秋取立辰ノ秋急度御勘定仕上可申候為後
日仍如件

貞享三寅年五月五日 服部伊右衛門印

岩瀬小右衛門印

遠藤間兵衛印

(50)

遠藤作兵衛同

小山弥兵衛同

舟田善右衛門同

小沢名兵衛同

御勘定所

表書之米沢領之内御藏入新宿村町当寅ノ三月家令焼失候、本百姓水吞百姓拝借金願候由右水吞百姓之義も本百姓並ニ諸役相勤候段無紛旨承之候、於然者家数七十三軒之内火本壺軒除之残テ七拾式軒、但本百姓五拾壺軒八壺軒二金壺兩宛、水吞百姓八式拾壺軒八金式分宛、都合金六拾壺兩式分借渡之来卯ノ秋急度取立可有勘定候、水吞百姓拝借之儀脇脇之例ニ八成間敷候断者本文ニ有之候、以上

寅六月十五日

勘左衛門印

五左衛門同

彦次郎同

庄右衛門同

清右衛門同

長兵衛同

九左衛門同

半兵衛同

市右衛門同

備前同

和泉同

伯耆同

(51)

寅ノ二月十八日高島村町火事仕百生家数之覚

一家数三拾五軒

右之内老軒火本二付而除申候

拾三軒

本百生 但老軒付而老兩宛

内 此金拾三兩

式拾老軒

水吞百姓 但老軒付而式分ツ、

此金拾兩式分

金合式拾三兩式分

右之通紛無御座候被遊御借可被下置候、来秋中取立辰ノ秋御勘定仕上可申候、為後日仍如件

貞享三寅年三月

服部伊右衛門印

岩瀬小右衛門印

遠藤間兵衛印

遠藤作兵衛同

小山弥兵衛同

舟田善右衛門同

小沢名兵衛同

御勘定所

表書之金貳拾三兩貳分被借渡、来卯秋中不殘急度可有勘定候、断者本文有之候、以上

寅三月廿三日

勘左衛門印

五左衛門同

彦次郎同

(52)

庄右衛門同

清右衛門同

長兵衛同

九左衛門同

六右衛門同

半兵衛同

和泉同

伯耆同

備前同

ル
(貞享三年年貢米、夫食御借米)

米沢御領寅ノ御年貢米并夫食御借米之事

一六千九百拾九石四升八合

寅ノ御年貢米

一千四百八拾五石

夫食御借米元利金共二

是八丑ノ御年貢米之内一割ノ御利米寅ノ暮二元利共二上納仕分

合八千四百四石四升八合 米沢御領所米

此金三千七百五十九兩壹分卜錢七百七拾四文

但金壹兩二付而弍石弍斗三升五合四夕五才更

右是八米沢御領所寅ノ御年貢夫食御借米元利共二福島直段二・從高畑福島迄駄賃相除之所払直段吟味仕押合如此御座候、此直段二而被 仰付被下置候ハ、現金二壳渡シ重而御勘定可仕候、已上

貞享四卯年 右同七人

御勘定所

表書之米沢領去寅ノ御年貢米八千四百四石四升八合如例年金納願之義金壹兩二付弍石弍斗替ノ積代金取立重而

(53)

可有勘定候、断者本文有之候、以上

卯三月 右同 十弍人 御連判

(貞享四年御領馬売役錢)

覚

一 永百貳拾七文六歩九リン五毛五チン 馬売買役十疋分

印

松平 萩原 諸星 大柴

此銀八匁五分壹リン貳毛 打出

設樂 平岡 但銀壹匁永十五文替

是ハ米沢御領ニ而貞享四卯年方馬売役錢片役ニ・丁錢六百八拾壹文分、但馬代銀百匁付而百文宛ノ積リニメ取立卯御勘定ニ仕上ケ可申候、年々不同ニ而少分ニ御座候へ共御為可然と奉存如此御座候、以上

貞享五辰年八月 右同 七人印

御勘定所

メ

(貞享四年御領山年貢)

一 銀拾三匁四分四リン九毛 山蠟払代

是八米沢御領、新宿・竹森・阿久津・高島・金原・高安・塩野森・和田・長手・浅川・木和田・川井此拾式ケ村、山蠟式貫六百三十七匁取立蠟目老貫目二付而銀六匁五分宛、但金老兩二付五拾八匁更二相渡此方ケ払候二八蠟老貫目二付銀拾老匁

(54)

六分宛売立分兩替同断二・差引如斯公儀へ上納仕様二御座候

右八米沢御領ノ内山御年貢取立申付而貞享四卯ノ秋遂詮義御買物二申付候而代銀相渡御徳分如此御座候間当秋御勘定仕上ケ可申候、年々不同二而少分二御座候へ共御為可然と奉存如此御座候、以上

貞享五年辰四月 右七人 印

御勘定所

付札

書面之米沢御領山年貢年々不同有之旨令承知候 小菅 印

今度被取立置候蠟払代銀拾三兩四分余之義重而可有 佐野 同

萩原 同

勘定候断者本文二有之候、已上

杉田 同

四月廿九日

(貞享五年御領雜駄売買役錢)

覚

一拾八貫百八拾六文 雜駄式百八十八疋分売買役錢

此金三兩三分銀八分式リン七毛五チン

右是八米沢御領ノ内雜駄売手買手方銀百匁ノ馬代二付而百文宛、都而式百文取上申
筈私領同前二遂詮議乍少分此度申付候而相調貞享五辰ノ秋御勘定仕上ケ可申候、年
々不同二而少分御座候へ共御為可然と奉存如此御座候、以上

(55)

貞享五辰年三月 右七人 印

御勘定所

表書之羽州米沢領去卯年雜駄式百八十八疋ノ売買役錢拾八貫百八十六文ノ義金壹兩
二付而錢四貫八百文替ノ積金二而取立之可有勘定候、断者本文有之候、以上

辰三月廿四日 井出平八郎 印

平岡三郎右衛門 同

杉田五左衛門 同

大柴清右衛門 同

設樂長兵衛 同

無出座

細井九左衛門 同

佐野長門守 同

小菅遠江守 同

ル

(貞享五年御領せり駒代)

覚

一六百八拾壹匁 銀

糶駒代貳拾疋

此金拾兩壹分壹朱余 但金壹兩二六拾六匁替

右是八米沢御領ノ内ニ而貳歳駒貞享四卯年相改小松村糠目村と申所ニ而糶相濟馬代銀共ニ差引相渡申候貞享五辰ノ七月中赤湯村と申所候右之駒三歳ニ而牽出シ遂詮議馬代銀上ケ一倍ニ而馬亭ヲ取立申答ニ私領同前ニ此度相定申候但売兼申分者貞享五

辰九月十月中二取上候而已ノ秋御

(56)

勘定可仕候、今年取立申分ハ当秋御勘定仕上可申候、年々不同ニ而少分御座候へ共御為可然と奉存如此御座候、以上

貞享五辰年三月 右七人

御勘定所

表書之羽州米沢領去卯年糶駒代金拾兩壹分壹朱余之儀一倍ニ而当秋取立之候可有勘定候、断者本文有之候、以上

辰三月廿四日 御九印同断

ル

(貞享五年御領年貢米、夫食借米)

米沢御領卯之御年貢米并夫食御借米之事

一五千六百六十壹石六斗貳升 御年具米

一千四百八十五石 夫食御借米元利共

是者寅ノ御年貢米ノ内一割ノ以利米卯ノ暮二元利共二上納

仕分

合七千四百拾六石六斗式升 米沢御領所米

此金二千五百三拾壹兩卜錢五百式拾文 但壹兩二付而四石八斗

式升三合四夕九才更

右是者米沢御領所卯ノ御年貢米夫食御借米元利共福島直段ニして従高畑福島迄駄賃相除之所払之直段吟味仕押合如此御座候、此直段ニ而被仰付被下置候者現金壳渡重而御勘定可仕候、以上

貞享五辰年三月

右七人

御勘定所

(57)

表書之米沢領去卯御年貢米七千四百拾六石六斗式升如例年之金納願之義金壹兩二式石八斗式升三合四夕九才替ノ積リ代金取立之可有勘定候、断者本文有之候、以上

辰三月

杉田 設樂 大柴 設樂

是迄無官

細井 萩原 佐野 小菅

(年貢米のうち百姓作米になるべき借し)

覚

千參百五拾石

高百石付而四石五斗宛

右是八米沢御領卯ノ御年貢米之内百姓作米ニ可被成御借候当秋一割二仕候而急度取立御勘定可仕候如毎年被 仰付可被下置候、以上

同年三月

・内七人

御勘定所

s 表書之米沢領去卯御年貢米之内千三百五拾石如例年為夫食被借渡当秋加一割ノ利米急度取立之可有勘定候、断者本文有之候、以上

辰月日

御連判右同断

(58)

(諸色の当たりつけ)

諸色ノ当り付

一里四斗五升表ニして五匁五分蠟之たり目六百三拾匁ツ、

一山四斗七升表ニして六匁五分但九百匁たり

一里蠟百匁ニ付而八分七リン三毛

一山蠟百匁ニ付而七分貳リン貳毛

一上蠟壹貫目ニ付拾四匁貳分八リン五毛七チン

一中蠟壹貫目ニ付拾三匁四リン三毛四チン

右八木壺本付而蠟目十匁ニ一分四リン貳毛八チン余

一漆百匁ニ付六匁 一貳朱 七匁五分

一壺朱 三匁七分五リン 一朱中 壺匁八分七リン五毛十五かへ

一銀ニして百匁付 永壺貫五百文 一六石付而 永壺貫文

一五石付而 永八百三十三文 一百石ニ貳石貳升口

三分三リン

六斗百ニして

一壺石ニ付而 永百六拾六文六分六リン

ル

(せり駒の次第)

せり駒之次第

一 買出ハ本銀ニ不構馬次第代渡り上ケ一倍二候、但墮馬ハ半納

一 駒ハ売主方壹方ニ拾六文半宛赤湯三才共ニ

一 雜駄ハ売手買手方百匁ニ付百文宛都テ式百文出ス小荷駄ともニ延八ニ改延九ニ取立
ル但外也

一 牛役壹疋ニ付而五百文減ハ其分附益計定候ニ取立之

(59)

(四行朱書)

御領所

一 四百式十疋

貞三本牛

一 三百八拾五疋

貞四新帳

右ハ兩年牛数山上改之分、但シ是ハ内々ノ覚迄ニして如此

豎紙役銀ニ而

(貞享四年夫食借米元利払い代など)

上納金之目録

一三百拾三兩貳分 貞享貳丑年永納

一六百七拾五兩 同年夫食御借米

元利払代

一千七百四拾五兩貳分 同寅年永納

一三千百四拾五兩朱中 同年御年貢米

所払代

〆五千八百七拾九兩朱中 小判後藤庄三郎包

貞享四卯年九月 一一内 服部伊右衛門印

岩瀬小右衛門印

水野金右衛門様

小田切太郎左衛門様

南条小兵衛様

西尾彦四郎様

（貞享四年永納支払）

御金札 請取申金子之事

合參百拾三兩貳分者 小判後藤包

右是ハ貞享貳丑年永納之由仍如件

貞享四年卯九月十日 水野金右衛門

西尾彦四郎

小田切太郎左衛門

（60）

南条小兵衛

上杉彈正大弼殿

（貞享四年夫食借米元利払い）

御金札

請取申金子之事

合六百七拾五兩者 小判 後藤包

右是者貞享式丑年夫食御借米元利払代金之由

仍如件

貞享四年卯九月十日

水野金右衛門印

西尾彦四郎同

小田切太郎左衛門同

南条小兵衛同

上杉彈正大弼殿

々

(貞享四年年貢所払代金支払い)

請取申金子之事

合千七百四拾五兩式分者 小判後藤包

貞享四年卯九月十日

水野金右衛門印

西尾彦四郎同

小田切太郎左衛門同

南条小兵衛同

上杉彈正大弼殿

ノ

請取申金子之事

合參千百四拾五兩朱中者 小判 後藤包

右是八貞享三寅御年貢米所払代金之由仍如件

貞享四年卯九月十日 水野金右衛門印

西尾彦四郎 印

小田切太郎左衛門

(61)

南条小兵衛

上杉彈正大弼殿

ノ

(御領老歩判・炭吹銀請け取り)

請取申金銀之事

一千兩八

壹歩判

一拾五貫目

炭吹銀

千坂印

合千兩ト銀拾五貫目者

壹分判

炭吹銀

右ハ御領金銀請取申処実正也仍如件

貞享四年卯九月六日

静田又右衛門判

服部伊右衛門殿

岩瀬小右衛門殿

右本書有之但銀二ハ壹分五厘常是方へ遣ス金二ハ壹兩付テ式分五厘後藤庄三郎方へ遣ス

ル

(貞享五年借金取立納め、永納負方金、夫食元利など上納)

御金目録豎紙厚紙二而上納仕金子之事

一式拾三兩式分

貞享式丑年永納金之内を以高島村へ火事ニ付御借金取

立納

一六拾壹兩貳分

貞享貳丑年永納金之内を以新宿村へ火事ニ付御借金取

立納

一三百五拾六兩壹分

貞享三寅ノ年永納負方金

一五百貳拾五兩三分三朱之中

貞享三寅年石代ノ内卯ノ夫食借元利代金

一千七百貳拾五兩三分三朱

貞享四年卯ノ年永納金

内七拾壹兩二分三朱

新宿金山前銀百駄分、但六拾匁替ニして

(62)

一千八百六拾九兩貳分朱中

貞享四卯年石代所払金

合四千五百六拾貳兩三分

小判後藤庄三郎包

右是者米沢御領貞享貳丑寅卯三ヶ年分御年貢金上納仕候御請取可被下置候、以上

一一一一内

貞享五辰年九月十八日

岩瀬小右衛門印

遠藤作兵衛同

水野金右衛門様

南条小兵衛様

小田切太郎兵衛様

右之通目録紙を以認御金奉行衆へ金納前二目録小書ノ文言御加筆ヲ受ル印判なしニ
して持參御加筆申請清書二印判ニ而差上ル

右卯辰兩年分上納金

一四千五百三拾貳兩三分 後藤包

銀三拾九兩五分五リン 常是包

内

一三百貳十五兩貳分 未進永納

一四百六拾四兩銀三匁七分五リン 夫食借元利

残三千七百四拾三兩壹分

銀三拾五兩八分 辰年分

右半永ニ_レ壹兩ニ貳匁ツ、ノ歩合三貫七百四拾三匁五分

御徳分

(63)

御勘定所方出ル

(田地永代売買停止、質の定めなど)

田地出入裁許品々覚書

一 田地永代売買之儀ハ堅御停止之事

一 質ニ入候田地年季明二三年も過、本地主可請返由申出候、買主申様八年季明流候間返シ申間敷由申出候、出入之事此出入年季二三年過可請返と申儀、年季限之節金子才覚難成故と相聞候、然上ハ為請返可然奉存候、併年季明申候年方三年ノ内二候ハ、為受返、夫過候ハ、流候積りニ可申付哉之事

此出入為請返可然候年季限りより二十年過候得而も請返候義延引之訳ニ無之候、年数廿年と定ハ無之候、於評定所ニも二十年余ノ分も為請返候様ニ被仰付候、但田地質ニ取候者質流レと申立返又間敷と申候段ハ永代ニ可被心得二而、たとへハ二十兩之田地ヲ三十兩と手形為致候ハ、為請返間敷ためニ候故、ケ様之類ハ為請返候筈ニ申付可然事

一 質田地年季限り之節不請返候ハ、永ク其方支配ニ致地主ハ勿論一切構無之と手形有之候所ニ是も年季限り方二年も過候へ而請返度由申之当地主ハ手形之通永支配可

仕候由申出候出入之事

此出入質流ニ可罷成哉、但本地主手形文言永代ニ遣し候積リニ御座候当地主も手形之通永ク支配可仕と申張候故永代売買之道理ニ罷成候間遅ニ申張り候ハ、永代売之御仕置ニ

(64)

可申付哉、但シ年季限り方三年またせ本地主へ為請返候様ニ可申付哉之事
此出入道理為請返可然事

一田地質ニ取候而年季明キ申候ニ付本地主へ請返シ候様ニと從当地主相断候へハ請返候義不罷成候、右田地へ百姓仕付候共構無之候添証文迄仕候処ニ二三十年も過可請返由申出候出入之事

此出入添証文之通可申付哉之事

此出入証文之通申付可然事

一田地永代之売買堅御停止ニ付代金一倍ニ仕年季ヲ限質入取置申候年季明請返候節証文之通之代金ニ而為請返可申付哉之事

此出入吟味之上代金一倍ニ為仕候段無紛候ハ、本金ニ而請返可然事

一 質入田地年季不明内二本地主請返度と訴出候者年季限り迄相待候様二可申付哉之事
此出入書面之通年季明候迄相待候様二申付及違背二候者牢舎申付可然事

一 一作売ノ田地小作相滞訴出候二付度々日切申付候へ共不相濟候二付今以度々及訴訟
候如何可申付候事

此出入日切手形三度迄申付不相濟候ハ、右小作田地取返シ

(65)

可相渡事

一 私領上り知御領所二罷成候所私領之節其所之郡奉行裏判二而田地永代之売買ニ致置
売人方方可請返由申出候出入之事

此出入郡奉行并其所之大肝煎裏判致置売主と相對ニテ売買為仕候儀ニ候へ共私領之
節二而御法度之義申出候上者御仕置之通田地取上ケ双方共ニ永代売買之御仕置ニ可
申付哉、但私領之時分之義其上郡奉行裏判有之永代売買之儀ニ候間ケ様之類ハ手形
之通可申付哉、左候ハ、可取返と申出候方を牢舎にても申付度儀ニ奉存候、無左候
ハ、売人者請返シ不申候共痛不申、若請返し申候へ者仕合と存此類ハ数多可申出と
奉存候、而私領之節之田地出入者取上不申候様ニ仕度奉存候事

此出入其所郡奉行裏判有之分ハ永代売渡ニ而も裏判之通申付之裏判無之永代売買之分ハ御仕置ニ成候旨双方へ為申聞之内証ニ而為相濟候様ニ仕可然候、併双方とかく合点不仕候ハ、永代売之御仕置ニ申付其訳書付御勘定所へ可差上之事

一私領之節未進致難渋候百姓其節之役人吟味之上所ヲ致追放田地所へ申付未進取立候
二付右之田地或村中配

(66)

当或百姓ヲ仕付御檢地之節当地主御繩請候所ニ本地主立歸請返可申旨訴之候出入如何可申付哉之事此出入詮議之上追放者ニ無紛候者取上申問敷事

一未進難渋仕候付所を追放仕候者之田地所之庄屋百姓仕付置候勿論御檢地水帳ニも本地主竿請仕又ハ当地主竿請仕候も御座候、其節之未進今程相濟右之田地請返シ可申旨訴出候出入之事

此出入追放百姓ニ無紛候者取上ケ申問敷事

(知行割りの法)

知行割之法

一 郷帳と国絵図と見合厘付之高下米永之取合永勝ニ無之村ヲ見合最寄能村ヲひろひ五ヶ年御取ケ之平均実壹石式斗五升代ニ而三ツ之外位ニ候ハ、可相極、但厘付其時之可任御好

一 高千石ノ村之内ニ而縦ハ三百石引ぬき知行ニ相渡候時は知行ニ可渡高ヲ其村高二而割りそれを法にして本途ノ米永小物成田畠反別へも掛ケ候得者渡り高反別も知ル同所新田畑有之候へハ本村高之新田高勿論小物成ヲも打込作り高ヲ拵法ニシテ割其法ヲ新田へも掛候へハ新

(67)

一 田高分り申候小物成永方高二直シ五石更ニシテ入ル取候ハ式石五斗更ニ入ル

一 可遠慮事新田畑大分有之所運上物大分有之所助高ノ村御普請所多キ所諸役他村へ引帳候所惣而障り有之哉可相尋

一 小物成八百石二三四石迄ハ不苦

一 壹万石以上ノ知行割ニ小物成多キ所可用捨

一 林有之所高割ニ而可相渡之

一 万石取候少く御加増被下候節者小物成ハ高外ニ相渡ス

一高二直ス類野錢山錢下草錢楮桑綿麻ノ運上物、此類者高二直ス、夫錢糠藁杏藁錢之類ハ高二不入、万石以下之知行割ニモ高外也但取ヘハ式石五斗替ニシテ入ル、畢竟地面無之不足物ハ其外と可心得

(上方知行割りのこと)

上方知行割之事

一高五百石之村二百石ノ新田有之時右之内ニ而三百石知行ニ渡シ候時本新合六百石ニして渡り高三百石ヲ割候ヘハ五分ニ成、是ヲ新田高百石ヘ掛候ヘハ可渡新田高五十石と知ル、是二本田高式百五十石ヲ加三百石と成、小物成共ニ可為右同前

(68)

一米ハ一倍ニ而高二入物成ヘハ有来米ニ而入

一銀ハ壹匁ニ付五升替ニして物成ヘ入高ヘハ一倍ニ入ル

一金ハ壹石式斗替ニシテ物成ヘ入高ヘハ一倍ニして入

(運賃の定め)

運賃御定之事

一大豆八米ト同シ 一荏八壺俵半ニ而米壺俵ノ積

(駄賃の定め)

駄賃御定之事

一米大豆ハ壺駄式表附 一荏壺駄ハ三表附

縦ハ

米高九拾表式斗式升但三斗七升入之駄賃

但居村方附出シ五里ハ駄賃不被下

此米四里半ノ所一駄式俵附一里廿四文ノ積り、右法二米高九十表式斗式升ヲ俵方米式斗式升ヲ俵ノ位、三斗七升ニテ割俵ノ位ニして二ニ而割ハ四十五駄二九六一と成、扨右ノ一駄廿四文之道程四里半ヲ掛ケ候ヘハ壺合八分と成、是ヲ目安ニメ右ニテ割候駄數ヘ掛候ヘハ京錢四貫八百九十三文二成、是ヲ九六ニテ割目ぬけ鑿二成、荏高四俵五升三合ノ駄賃、但三斗七升入、此鑿百五十七文 但居村方附出シ五里ハ駄賃不被下

(69)

但道程四里廿町之所一駄三表附一里二付廿四文ノ積、右法二荏高四俵五升三合俵ヨリ下五升三合ヲ三七二而割、俵ノ位二四一二三三卜成ヲ三ニテ割ハ駄數壺駄四一四三一

と成、扱右ノ駄賃廿四文へ掛候へハ壹合八四八と成、八ヲ入候而五ニ作り一合八五ニ
必右目安ニ置三ニ而割ル駄賃へ掛候へハ京錢百五十三文四分六リンと成是を九六ニテ
割前ノことく

(口米のこと)

口米之事

一 関東ハ三斗五升入壹表ニ付壹升永壹貫文ニ三十壹文貳分五厘

一 上方ハ壹石二三升但遠州三州駿州ハ関東と同じ

(関東石代)

関東石代

一 永壹貫文ニ米貳石五斗直 荏大豆八米一升ニ貳升更

永百文ニ五石更

高百石ニ 大豆ハ 貳斗掛り

荏ハ 壹斗掛り

一 福島ハ七石替 一 羽州米沢ハ 六石更所納但一斗ニ二升出目

一 奥州 三石貳斗替 三石七斗貳升替

三石五斗替 式石五斗替も有之候

一口米之儀知行二相渡り候所其年ノ物成検見終り差出帳極り以後、知行二相渡り候へ者其年ノ口米四分三御代官へ被下之候四分一私領へ被下之候是ハ延宝九酉年甲府様へ御加増被 進候節御老中御相談ノ上相極ル

(70)

(関所手形に記載すべきこと)

関所手形二可書載之

假ハ女上下何人ノ内

一乗物

何挺

一禪尼

是ハ能人ノ後室姉妹杯ノ髪そりたるを云

一尼

是ハ普通ノ髪そりたるを云

一比丘尼

是ハ伊勢上人善光寺などの弟子又ハ能人ノ後室杯ノ召仕ニあり其

外熊野ひくに也

一髪切

是ハ髪ノ長短によらず少切候共又ハ中はさミ出来物之上はさミ候

共何も髪切也煩候而髪ぬけはへそろいさる髪切ニて無之、但是も

髪切と見へ候ハ、かミきり也

一少女

但ふり袖之体不審有之ハ可改、但少女ノ内あまかふる髪切なと及

改

一乱心

一手負

一囚人

一首

一死骸

いつれも男女共二右之通手形可書

載之若不審ノ体於有之ハ可改此外ハ不及改、但欠落等ノ者有之節ハ從此方書付可遣候
間隨其趣可改之次二当月ノ日付二而來月晦日迄ハ可通之從其日限及遅引ハ不可相通女
路次二而煩又ハ相果手形方不足之分ハ其断聞届可通之勿論多ハ不可通者也

貞享三寅七月

酒井能登

彦坂壱岐

(71)

出羽

松浦内藏允

以上

四月廿五日

天和元年

(順見衆への対応のこと)

御順見御目付御馳走ノ次第從最上聞合ニ付而申越覚

一御順見之御衆御宿町屋ニ而三ヶ所但上段壺計置ノ表替仕候事

一道橋掃除奉行式拾丁ニ式人宛御目ニ不付様ニ差置候事

一御宿ニ而木賃上拾五文下八文油蠟燭亭主ノ物但上之分八式丁目下八拾匁懸

一村遠海道もなるほと掃除仕候事

一家老途中迄迎之儀城下より拾四五丁出候町奉行拾丁程罷出ル但町頭迄

一御着之由町奉行御宿江參上仕候へ共御用も無之故不懸御目候事

一御寓御昼休ニテ上御壺人前宛二三ノ膳向詰下ハ足付皆朱椀折敷本膳計三ヶ所へ百式

十人宿ノ家財之様ニして渡置候事

一切盤鍋蓋摺木手水桶柄杓水のミ此類ハ新敷仕候事

一壺ヶ所へ人足五人宛宿ノ召仕之様ニして差置候事

(72)

一領内兼而不被 仰出村々へ不凶御出被成候儀無御座候結句被仰出候最上境をも御覽

不被成候仙台領へ八十一日二御越之積り二御座候事

一保田甚兵衛様御用人角田平兵衛・稲垣三郎兵衛但御供廻上下四十六人

一御朱印伝馬十五疋同人足八人外二駄賃馬五疋宿送り雇人足拾人

一佐々喜三郎様御用人留岡平太夫但上下御供廻式十七人

一御朱印伝馬拾疋同人足八人外二駄賃馬式疋宿送雇拾人

一飯河傳右衛門様御用人高橋瀬兵衛岡野谷才兵衛但上下式十六人但御朱印伝馬十疋同

人足八人外二宿送り雇人足拾人

一式十四人御駕之肩替人足御老一人へ八人宛右之持二足輕老人は八当地へ被為入候時境

目二而御馳走のため出し申事

一当地にて諸事下聞役分限五百石之者三人手廻り同心三拾人は八用心ノため御目二不

付様二召連候領内御廻りノ内御馳走二付置候事

一代官老人手鍵挟箱馬上二而此外庄屋老一人宛御案内、但シ村切二仕候代官も仕配切二

罷出候

一本道老一人外科老一人付置候事

右之外微細成義ハ当分当分二了簡次第見合二仕候先右

(73)

之分差立たる事計申進候

月日

(会津御料所の道程など)

覚

一 会津御料所ノ内南山ト伊南伊北郡名不相知候処糺明之上会津郡ニ罷成候

一 鶴沼川と日橋川ニ水落合候所ニ一筋ニ罷成其儀ニ記申候

一 拾五里拾五丁拾八間 東黒森峠方西鳥居峠迄

一 式拾四里式拾四丁拾七間 南山王峠方北桧原峠迄

一 辻式十七万式千拾壹石八斗壹升六合 新御絵図高足候間惣而諸国方江戸江相廻候米

穀等ハ不及申其所之用米之外可成分ハ江戸江相廻候様ニ可被申付事

一 江戸廻り米不足ニ付而段々御領米之米江戸江為御登被成候人馬無滞可被通事扱又御

代官方方私領方之米御買可被成候相对次第無氣遣扱可申候酒五歩一作り候、四歩ノ

一 米江戸江廻候へと有之義ニハ無御座候江戸へ為登候

(74)

(八丁目通り村高の覚)

庭坂村二而奥野八左衛門二承書記申八丁目通り村

高之覚

一高式千七拾三石七斗一升式合	庭坂村
一高七百二拾四石七斗一合	二子塚村
一高八百三拾八石四斗一升五合	桜本村
一高八百三拾八石一升五合	土舟村
一高九百拾六石三升三合	庄野村
一高七百七石六斗五升一合	左原村
一高三拾八石四斗六升九合	土湯村
一高千九百七拾七石式斗式升五合	上名倉村
一高千五百五拾八石三斗三升三合	下村
一高千四百七拾五石一升四合	上鳥渡村
一高千六拾五石三斗九升七合	下鳥渡村
一高式千百六拾六石三斗三合	荒井村

一高千四百六拾六石三斗三合 小倉村

一高九百貳拾三石四斗一升八合 山田村

一高三千百拾七石八斗八升五合 大森村

一高千百貳拾九石八斗八升三合 平沢村

一高貳千百三拾六石七斗九升 水原村

一高三千五百六拾壹石七斗五升九合 八丁目村

(75)

一高四百四拾五石一斗五升五合 関谷村

々

小以高貳万七千百七拾七石九斗三升五合

已上

(切支丹など)

覚 類族

池黒村美濃

右八池黒村百生候五拾九年己前寛永六己巳年於米沢磔仕候其節訴人穿鑿之品帳面紛失

二付而委細知不申候父母舅姑共二相知不申候

宮内村金七

二色根村四郎兵衛

右同年断罪右同断

蒲生田村岡崎丹波

右八元来出羽国庄内領^ゝ参候牢人二候其節之年号月日相知不申候米沢領蒲生田村二住居仕候然処切死丹宗門之由山形領門傳村次郎左衛門訴人仕候由四拾弍年已前正保三丙戌年五月廿六日御奉書并從井上筑後守方以別紙之書付申来候付而則牢舎申候拷問仕候へ八庄内二罷有候付切死丹宗門二罷成由白状申候

(76)

同年九月廿七日江戸江為差登可申由井上筑後守方^ゝ被申渡候付同年十月廿七日二為差登井上筑後守方へ相渡其後知不申候父母舅姑共二相知不申候

元禄二年

巳十月廿七日写置之

但是八何方へも不差出候

(免許百姓)

免許

一本柳

露藤

長手

高橋清左衛門

塩目平兵衛

坂野六左衛門

土屋儀右衛門

竹井

新藤掃部

網代角内

金子名兵衛

遠藤五右衛門

石河惣兵衛

黒田新兵衛

齋藤五右衛門

新藤半右衛門

(城米のうち得代、板倉家借り米)

御城米之内

御得代二付而

一壺万五千俵

板倉甲斐守殿御借り米

但割りわたしノ由

無利

此内池田新兵衛殿為御登米ノ内残り米ノ分御借り不足候所ハ米沢御領方引足ニ、三千表ほと御借り被成候由即御城米同前ニ板谷通仕候御返濟ハ甲斐守様方秋米を以御返納也

一六千式百表程

米沢御領高畑川井二有之分

右八四月中二両口へ出ル

一千両程

石代

八月江戸へ参申候へ共一年置ノ御勘定之由

(77)

付札

中札文言

酉御年貢米但四斗入久保田長五郎御代官所

米主仁兵衛判

羽州置賜郡米沢領安久津村郷御藏江入置申候

米見彦右衛門同

宝永貳年酉十二月

升取惣兵衛 同

名主市右衛門同

右之通拙者立合吟味仕如此御座候以上

手代

木村孫平次 印

(延宝四年宗門改め人数)

延宝四年宗門御改人数之覺

一 壹万三千九百五拾九人 御預領三万石

八千貳拾壹人 男

五千七百拾三人 女

内 六拾九人 出家

三拾四人 山伏

貳拾貳人 座頭

ノ

(式日・立合など)

御寄合

一 式日 四日 十二日 廿二日

右八御老中大目付寺社町奉行勘定奉行

一 立合 六日 十四日 廿五日

右八寺社奉行町奉行勘定奉行

(78)

一内寄合 九日 十八日 廿七日

右八三奉行宅二而支配中迄

(新升のこと)

新升一卷之覚

但四月十五日立五月十五日下此節所払下直ノ中

分ケ旁濟申候事

一寛文十年十二月中福島方御用紙役町人佐原七十郎中條越前殿へ参候而注進申様ハ、
信夫領之儀今度新升二被仰付都而四斗表二相成候由申候、夫迄江戸方も何之儀歟不
申来米沢御領私領共如何と為御知申二付、桜井市兵衛清正工事ヲ相務罷下候へハ、
此度ハ岩瀬小右衛門為御登先々公儀前とくと御聞合可然由二て、御家老中何も御同
意之趣先達而御飛脚相立即小右衛門為御登四月十五日差立江戸上着之上御留守居坂
田五左衛門同道御勘定頭諸所相勤其後式日二御評所迄小右衛門被召出、御老中土屋
但馬守様被 仰渡候様ハ今般諸国一遍二升御定被成候、米沢領二ても可被得其意由
被 仰付候、古来ハいかかと被成御尋付而、小右衛門御答申上候ハ会津打入之納升

と申候而只今迄四斗入壺表と相定用申候、是二て福島領などへ御下ヶ被成升之給合を積見申候処新升二して四斗と被 仰付候へハ右壺表ノ上二新升五升蔵米

(79)

二して家中給人共二只今取来申方ハ不足米出申付而台所方も半知之上と申、猶以段々及難儀家中も迷惑可仕候由委細御直二申上候へハ、御同座御勘定奉行杉浦内蔵允殿御取合も御座候而御老中但馬守様御納得被遊御尤之由被仰然上者新升を八用不足之所ハ会津打入升之通可被致候、新升用意候様二と計被 仰渡候而悉ク御聞分ヶ埒明退去仕候、右御評定所御用小右衛門口上を以事済申付而、御守役竹俣勘解由殿奉り候て言上之上為御褒美金子五兩小右衛門へ拝領被仰付候

一右升之儀ハ江戸町年寄樽屋藤左衛門所方請取可申由於御勘定所岡部左近様守屋権太夫様御書付小右衛門へ御渡被成但新升調可申由ノ御書 則其砌舟廻二而三四百兩代金御取替新升下り夫方付也、米沢御郡中二而新升相用來候也、右御用隙明五月十五日二下

一江戸 公儀前御聞合と申義ハ只今迄江戸方もいつれノ問違歟不申来、米沢二ても升御沙汰無之御違有之様二も無之様可申開由被 仰付 上意いなや御出入之御老中様

御勘定奉行衆外御役方様中へ先御内々相廻、但御料穀代罷登候序之様申入候へと於
江戸被 仰付候事

（京枘のこと）

京枘之覚

（80）

一五寸 一式寸五分 六十式坪半

但一寸坪

壹斗入

一広一尺七分七リン二毛 一五寸三分八リン六毛 六百式拾五坪 下付札

右同断 古升ト見ル

斗升

一広一尺二寸五分 一深五寸 七百四拾四坪式歩 新 広一尺五分六リン三毛

下付札

深五寸八分式リン三毛

一升入

ノ

下付札

一広五寸 一深貳寸三歩 五十七坪半 一升新 広四寸九分

深サ二寸四分

ノ

一古斗升 四斗 古扨升ノ五斗式升五合

一古納升 八斗 新升二ノ九斗八合

都合廿八万五百拾石七斗九升七夕

内壺万六千貳百七拾壺石七斗三升八合 村上白川二本松下野

国之加り申分除申候

一一一内

元禄十三庚辰年八月 名 印

(酒造のこと)

酒造様之儀承合申覚

一今日井戸対馬守様江參上用人藏田覚太夫と申者二面談伺申様ハ酒造之儀五ヶ一と御諸家へ被 仰渡候先以米沢私領之義当七月廿一日之洪水二而大分之損亡罷出其上近年無之不作候間皆留り二も仕度段役人共方申遣候、いかか可有御座候哉と申候得ハ成程皆留りに被成義御尤

(81)

奉存候、子細者五ヶ一外二造申義無用と被 仰付候上ハ皆留り二被遊候而悪敷義二ハ御座有間敷様二被存候、対馬守領地少分之処故酒屋一軒御座候、今年ハ皆留り二申付仙台領二而ハ去年中ハ皆留り之様二及承候、然上ハ其元様御領内皆留二被遊候而不苦様奉存候と申候、以上

元禄十四巳年

十月廿三日

岩瀬小右衛門

右之通聞合被 仰付御中之間江委細申上米沢へ被 仰越候事

(風雨損亡について新古升)

覚

一今度所々風雨損亡付而江戸米其外穀類等可為ふ

一古斗升 壺石 新升ニして壺石壺斗三升五合

一古払升 壺斗五升 新升ニして

大二して壺斗三升壺合七夕

小二して壺斗二升七合三夕五才

右壺人ふち大ノ月三夕引足壺斗三升式合小ノ月六夕九才

引足壺斗二升八合、但一日ニ四合四夕ツ、

一古払升 壺石 新升ニして八斗七升八合

寛文十年八月二日ニ新古ノ廻シ改ル

外二 覚

一納式表半ヲ四斗五升四合表ニ懸候へ者壺石付而壺斗三升五合ノ延出ル、但四斗五升

四合ヲ見候ニハ古升四斗二壺石壺斗三升五合を懸候事

ル

(82)

(六斗百・入木足前など)

一六斗百之事并附益銀之事

右御郡中米方銀方之割合二付而六斗百之事往古有之割合二候処、寛十四十五御檢地以後新田附益申付而、五斗百二御直シノ続ニ諸代官を以被 仰付候処、村々百生共訴申様ハ、段々左様ニ御附益被成候ハ、又も末々可被 仰付様奉存候間、御請難申上候間、同ハ御郡中村々懸リ銀ヲ御定御割府被 仰付可被下置候由達而御訴訟申上候付明曆三年二福島米沢へ百六貫目相懸リ申候事

一 往古ハ入木足前錢村々不同ニ懸リ申候是も明三二三三十式石

一 軒と相定リ百石何程と割合出候事

(元禄年中家老尋ねについて小右衛門書き上げ)

元禄年中米沢御家老衆御尋付而小右衛門方書上入御覽候留

一 貞享年中御諸家御預ケ所へ初而郷帳被 仰付候依之三ヶ年江戸上下被 仰付同三年寅ノ郷帳始而御勘定所へ仕上申候付而御右筆黒金茂兵衛被 仰渡相調卯ノ年ハ桜井勘左衛門相勤右兩人へ差図致候而無滞御勘定所へ上納仕候辰ノ年郷帳ニ罷成候而ハ千坂兵部殿方米沢へ御相談を以六ヶ条之御隠密御用右御帳面二仕組差上申付而嫡子平太夫被差登右書事一式二付父子共ニ御中屋敷へ被差置諸色御勘定方へ御伺仕事済右御帳悉皆無滞御上納相究申候御役方遠藤作兵衛同道為御登被成候

(83)

但服部伊右衛門病氣其上隱居前故郡奉行代り共二被仰付御勘定奉行衆へ御使者共二相勤一式事済申候、但貞享五年八月登同十一月下旬迄二て下着仕候

右郷帳連判ノ次第

貞享五年

支配人

岩瀬小右衛門

勘定人

市川助右衛門

郡奉行

服部伊右衛門

家老

松木彦左衛門

同

須田右近

同

千坂兵部

同

長尾権四郎

一此四ツ四歩と有之ハ錢高式千七拾壹石余懸ケ候而則所納之筭歟、但此四ツ四歩之内
二而四歩六歩ノ差引有之歟

下付札

此四ツ四分卜有之ハ錢高式千七拾壹石余二懸ケ候而則所納之筭かと御尋ニ御座候此
四ツ四分之免ハ田高千七百卅五石三斗九升一合余ニ割懸候而所納仕候筭ニ御座候か
と奉存候田方之免と有之候へハ畑方ニハ構無之筭ニ御座候

一田方ハ田方畑方ハ畑方ニテ取ニ様ニメ仕上ケける候事

下付札

一畑方之儀ハ四ツ五分之免畑高三百卅六石九斗三升三合余ニ懸り御上納仕候筭ニ可有
御座候

(84)

一畑方も四歩六歩之定敷、但此四ツ五歩ヲ畑方へ懸ケ所納致候筈歟

下付札

一畑方之儀ハ升ふせ無御座候へハ四分六分之誤ハ有之間敷奉存候

一田方縦ハ歩升壹坪ニテ粃五升有之ヲ是も四歩六歩か勿論粃大概何合挽と定り候哉之事

下付札

一田方縦ハ歩升壹坪ニ而粃五升有之を四分六分かとハ仰遣候村ニ方相違可仕候得共先
ハ有もみ四分六分之積り、御公儀様へ御定り左右ニ奉存候粃ハ五合引之御勘定かと
奉存候

一畑方歩升壹坪ニ付而何程と相定村々考を以書上申候哉、菜蕎麥等之畑ニ歩升ハ罷成
間敷候此誤承度候

下付札

一畑方江歩升壹坪ニ付何程と相定り村々考を以書上候哉と被仰遣候、畑方之儀ハ坪苅
無御座候へハ書上申儀無御座候、新檢之節上々畑上畑中畑下畑下々畑砂畑山畑と相
定り申候而石盛ニ而過不足御座候付、別而畑方ニ御檢見ハ無御座候畑方之御取箇之

儀者前年之例又ハ田方作毛ニより年々少ツ、違申候尤川欠砂置等御座候へハ書上申候付御引方ニ罷成候

一此四ツ四歩かきらす三十四ヶ村之分都合何百何十成と有之を田方畑方共ニ惣高二割候而田方ハいくつ畑方ハいく

(85)

つと定所納候歟之事

下付札

一此四ツ四歩かきらす三十四ヶ村之分都合何百何成と有之を田方畑方共ニ惣高二割候而田方ハ幾つ畑方ハいくつと定所納候哉と被仰遣候、別而惣高二割ならし免ニ罷成儀ニハ有御座間敷候、田方畑方共ニ村々作毛次第御取箇被仰付候筈ニ御座候先拙者共ハ左様ニ承罷在候

同

一近年之御検見先年方ハ様子違申候先年ハ免取頃日ハ反別取と申ニ罷成免ニモ構無御座候縦上中下田ニ御座候共、其田方田方の有もみ段々御吟味被成則取ヲ御付被成候、定而五合引ニハ四分六分之様成儀ニ可有御座候合付ハ村々方

〔あ〕		運上	56, 62, 77, 78, 146, 147
預所	6, 7, 23, 24, 28, 47, 59, 61	〔え〕	
預所上り	7	永代売買	142, 143, 144, 145
荒場	39, 42	絵図	6, 21, 22, 23, 39, 73, 74, 14 6, 154
〔い〕		江戸着入用	94
伊佐早	55	遠藤	11, 12, 13, 14, 15, 17, 18, 1 9, 54, 56, 68, 71, 120, 123, 140, 15 8, 167
板判	85	〔お〕	
壹歩判	138, 139	追駒	58, 77
入木足前	57, 81, 86, 88, 99, 101, 108, 166, 167	大久保	25, 49, 50
入判	84, 85	岡田豊前守	8, 48, 53, 67, 101, 10 4, 105, 109, 111, 112, 113, 115, 118
岩瀬	1, 2, 3, 7, 9, 10, 11, 12, 13, 1 4, 16, 17, 19, 20, 21, 45, 48, 49, 54, 55, 56, 59, 63, 64, 66, 68, 69, 70, 7 8, 86, 88, 90, 116, 118, 120, 123, 13 5, 139, 140, 161, 165, 168	小倉	10, 11, 156
〔う〕		小沢	20, 54, 63, 66, 70, 121, 123
上杉弾正大弼	5, 54, 62, 136, 13 7, 138	〔か〕	
上杉播磨守	3	借米	124, 125, 130, 131, 135, 13 6, 137
浮役	56, 64, 65, 66, 82, 100, 108	加番	27, 29, 30
雅楽頭	3	上方知行割	147
馬次	114, 116, 117, 119, 134	川欠	5, 39, 171
漆	35, 36, 56, 62, 79, 89, 99, 102, 104, 105, 106, 109, 133	川舟	57, 93, 94
		勘定目録	100, 107
		寛文四	2, 3, 6, 9, 48, 53

寛四	7, 8, 9, 48	石盛	33, 36, 37, 170
[き]		小作	43, 144
木実	57, 72, 89	小林	20, 49, 68, 74
京榭	163	小百姓	31
吉良上野介	3	小物成	10, 17, 38, 79, 146, 147
切死丹	77, 157	郷帳	8, 20, 48, 49, 56, 59, 70, 71, 72, 77, 81, 82, 87, 146, 167, 168
[く]		合力金	24
口留番所	28, 30	後藤庄三郎包	66, 135, 140
口米	58, 87, 97, 99, 102, 109, 149, 150	後藤包	136, 137, 138, 141
国絵図	21, 146	御領	2, 3, 9, 23, 27, 28, 30, 38, 46, 50, 51, 52, 57, 59, 60, 63, 66, 74, 75, 78, 79, 80, 82, 83, 84, 85, 86, 91, 114, 116, 119, 120, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 134, 138, 139, 140, 144, 154, 158, 159, 161, 165
組頭	23, 53, 76, 118	御料所	2, 3, 6, 49, 50, 52, 56, 59, 154
蔵米	8, 40, 48, 59, 162	[さ]	
黒川	24	宰配頭	23
[け]		西蓮寺	14
欠所	16, 56, 61, 63	酒井	45, 46, 50, 70, 151
間竿	31	酒田	57, 93, 94, 95, 96, 97
検地	2, 5, 13, 15, 31, 32, 33, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 74, 75, 145, 167	坂田五左衛門	8, 11, 48, 161
元禄二年	2, 3, 7, 45, 50, 59, 64, 68, 89, 90, 98, 107, 157		
[こ]			
穀留	30		
国分	12		

酒	45, 46, 50, 57, 58, 70, 83, 88, 89, 93, 94, 95, 96, 97, 151, 154, 164, 165	順見	58, 152
笹木野	57, 96	定免	8, 48, 55, 74, 75, 77, 79, 99
佐藤	12, 13	除地	34, 38, 42, 76
沢根伊右衛門	3	[す]	
[し]		炭吹銀	138, 139
志賀	9, 10, 106, 113	李平	57, 91, 96, 97, 116
敷質	60, 61, 62	[せ]	
質	60, 61, 62, 142, 143, 144	関所手形	150
質田	142	[た]	
質流	142, 143	高梨吉右衛門	60, 63
室高	20, 49, 56, 63, 64, 66, 70, 78, 88	高島御役屋	2, 30
嶋津利右衛門	63	高夫銭	79, 81, 99, 100, 108
朱印地	38, 76	高物成	8, 48, 54
焼失	20, 57, 119, 120, 121	大黒常是包	66
私領	24, 30, 38, 51, 52, 57, 75, 78, 82, 83, 84, 85, 87, 94, 97, 98, 114, 128, 129, 144, 145, 150, 154, 161, 165	駄賃	58, 91, 92, 94, 96, 97, 105, 125, 131, 148, 149, 153
新升	11, 57, 59, 86, 87, 99, 161, 162, 164, 166	[ち]	
地方	8, 48	知行割	58, 145, 146, 147
寺社領	37, 38	千坂兵部	3, 69, 167, 169
		[つ]	
		柘植	19, 57, 74, 79, 89, 90, 91
		土屋相模守	5
		土湯	24, 155
		妻木彦右衛門	8, 48, 53, 67, 98, 104, 105, 109, 111, 113, 115, 118

〔て〕		島山下総守	3
手形	34, 39, 42, 43, 106, 113, 142, 143, 144, 150, 151	服部	12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 46, 54, 120, 123, 135, 139, 168
〔と〕		半知	100, 114, 162
所払	7, 9, 11, 14, 18, 57, 58, 60, 61, 65, 98, 101, 104, 108, 109, 111, 112, 114, 115, 116, 117, 118, 125, 131, 135, 137, 138, 140, 161	番所	2, 25, 27, 28, 29, 30, 82, 83, 85
年寄百姓	31	〔ひ〕	
留り物	57, 83, 84, 89	肥後守	3, 7, 45, 46, 48
堂宮	38, 42	百姓林	41
〔な〕		兵部	3, 7, 8, 46, 47, 49, 69, 167, 169
中條越前	3, 161	〔ふ〕	
長手村	8, 47	福島	19, 24, 29, 45, 48, 73, 74, 75, 81, 91, 114, 116, 117, 118, 125, 131, 149, 161, 162, 167
名主	31, 44, 57, 72, 76, 78, 159	扶持米	17
〔に〕		夫食	58, 65, 76, 102, 109, 112, 124, 125, 130, 131, 132, 135, 136, 137, 139, 140, 141
新宿	16, 20, 27, 28, 29, 57, 63, 65, 78, 88, 91, 92, 118, 119, 120, 121, 127, 140	豊後守	4
西村	57, 84, 94, 95, 97	〔ほ〕	
庭坂	57, 91, 96, 155	北條安房守	7, 48
〔ね〕		本多淡路守	5
年季明	142, 143, 144	〔ま〕	
〔は〕		牧野因幡守	4, 5
破船	97		

町田作左衛門	4, 6, 8	安田兵庫	3
[み]		柳沢	25
水帳	32, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 145	山崩	39
道法	57, 70, 93	大和守	4
美濃守	4, 25, 70	[よ]	
[む]		四ツ八歩	48, 52, 75, 77, 80, 99, 100, 107
村高	4, 41, 58, 93, 146, 155	蓬田	9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 106, 113
[も]		[り]	
文殊八幡	12, 99	両替	98, 99, 127
[や]		領地指上	50
屋敷	34, 35, 38, 40, 43, 51, 52, 68, 69, 80, 119, 120, 167	[わ]	
屋代郷	2, 3, 9, 21, 45, 47, 52, 100, 107	渡高	146
		渡部	45

山王堂初雄（さんのうどうはつお）

2012年から2017年まで米沢古文書研究会会長

高橋育子（たかはしいくこ）

2015年から米沢古文書研究会幹事

米沢古文書研究会双書

解説 岩瀬小右衛門覚書

2019年7月1日発行

著者 山王堂初雄，高橋育子